

わが子のあゆみ

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

1

2015.1 NO.436
初冬号
第66巻4号



なかよし班活動

1年生から6年生で異学年のグループを編成し、清掃活動や遠足、なかよし遊びなどを行っています。

なかよし遠足では、6年生がリーダーシップをとり、計画を立てたり、楽しい企画を行ったりし、「ぽかぽか笑顔」が一杯でした。



たじみしりつわきのしましょうがっこう
多治見市立脇之島小学校

●【学校の教育目標】

「考える子 思いやる子 きたえる子」

3つの笑顔：「できた笑顔」・「ぽかぽか笑顔」・「やりきった笑顔」

脇之島小学校では、授業の中で出来た・分かったと感じることができる「できた笑顔」、人間関係づくりの中で生まれる「ぽかぽか笑顔」、体づくりを通して「やりきった笑顔」の3つの『笑顔』をテーマに取り組んでいます。

多治見市立脇之島小学校

がんばる子らの
汗と笑顔と眼差しと



授業参観

お母さんたちの前で、元気よく挙手、できた・わかった笑顔で一杯！

できた
笑顔



親子工作：家庭教育学級

親子で体育館が包まれる位の大きなドームを作り、達成感一杯！



ふれあい昼食会

地域の高齢者と一緒に遊んだり、給食を、食べたりして、
体も心もボカボカ！

ぽか
ぽか
笑顔



あいさつ運動

地域・保護者によるあいさつ運動、元気な「おはよう」でやる気一杯！



運動会

総勢69名で大きなピラミッドに挑戦、見事に完成、
「やりきった笑顔」で一杯！

やり
きった
笑顔



草取りボランティア

地域・保護者の方と一緒に校庭の草取り、校庭も心もスッキリ！

わが子のあゆみ

2015.1 No.436 初春号
第66巻4号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北ハツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ



[ぎふしりつ さぎやましょうがっこう]

岐阜市立鷺山小学校

●住所 〒502-0872 岐阜市鷺山北町 9番12号
●TEL (058)232-3623
●FAX (058)232-3624
●URL <http://cms.gifu-gif.ed.jp/sagiyama-e/>
●メール <http://gisyo14@sagiyama-e.gif-gif.ed.jp>
●児童数 532名



▲校舎

校歌



鷺山小学校校歌

作詞 平光善久
作曲 土屋寛恒

一、伊吹山は 高いな
青空に そびえているよ
ぼくと私の 希望も高く
どこまでも
この学びや 鷺山 鷺山小学校

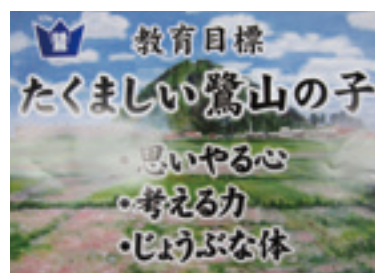
二、鷺山の 城址に立てば
長良川 清い流れに
岐阜城の 天守は映えて
つわもの夢 いまいずこ
この学びや 鷺山 鷺山小学校

三、濃尾平野は ひろいな
はてもなく つづいているよ
ぼくとわたしの 心もひろく
どこまでも
この学びや 鷺山 鷺山小学校



▲校歌

学校の教育目標 たくましい鷺山の子 ー思いやる心 考える力 じょうぶな体ー



▲各教室に掲げてある目標

学校の教育目標

学校の教育目標は、

です。そこには、生きる力を培い、仲間と共にたくましく未来を拓く人になってほしいという願いが込められています。

「思いやる心」では、相手の気持ちを大切に、互いのよさを認め励まし合うことのできる子どもたちを育てます。

「考える力」では、事実を見つめ、知識や自分の経験、仲間の考えをもとに、よく考える子どもたちを育てます。

「じょうぶな体」では、自分の健康を自己管理し、体力の向上に努め、困難に打ち勝つ気力に満ちた子どもたちを育てます。

今年度は特に、「心から仲間を大切に『学校』を合言葉に、活動しています。

学校のたからもの③ 仲間を思いやる心を広げる 「東北支援活動」

二〇一一年三月十一日の東日本大地震により、鷺山小学校にも被害を受けた地域からの転入生がありました。そのことがきっかけとなり、児童会を中心に、支援活動が始まりました。

一回目は、募金で、うちわを購入し、応援のメッセージを全校児童で書き、東北地方に届けました。

二回目は、より具体的に支援したいという願いから、被災地域に支援を続けている方の活動を応援することにしました。アルミ缶回収と募金活動で集めたお金で、仮設住宅に手すりやメッサージを送りました。

三回目は、校区で行っている鷺山夏祭りに児童会コーナーを作り、地域の方に、空き缶集めを呼びかけました。また校内でも空き缶集めと、募金活動を行い、集めたお金で、仮設住宅に、階段の手すりやメッサージカードを送りました。

今年の夏、本校職員が被災地を訪れ、支援先の仮設住宅にお住まいの方たちとお会いしてきました。まだまだ、大変な生活が続いていること。そして今までの支援活動が、被災されている方の大切な励みになっていることを実感しました。

沿革 地域の自然や風土

明治二十三年に鷺山村・下土居村・正木村を学区として設立されてから、本年度で創立百二十四周年になります。かつての校区は、豊かな田園地帯が広がり、大根畑がたくさんありました。しかし、岐阜環状線の開通により、大型商業施設や飲食店が次々に進出しました。さらに、都市区画事業により、たくさんの方の住宅が建ち並ぶようになり、校区の環境は年々変わってきています。

学校の南隣には、標高六十七メートルの鷺山があります。ここには、昔、斎藤道三の居城があったと伝えられています。今は、公園に整備され、校区の人の憩いの場となっています。また、学校でも、総合的な学習の時間を中心とした活動や、PTAが主体となって整備活動を進めています。鷺山は「ふるさと鷺山」の中心となっています。

学校のたからもの① 仲間をつなぐ 心をこめたあいさつ

鷺山小学校では、児童会が中心となり「あいさつ運動」に取り組んでいます。朝、昇降口の掃除をしながら、全校児童に挨拶を呼びかけたり、あいさつ運動を続けています。



▲東北支援活動コーナー

また、学校のロビーに、東北支援活動のコーナーを作りました。支援活動の由来や、今までの活動の記録、東北大地震について学習する展示や、関係図書コーナーがあります。

今年度は、四回目の東北支援活動を行う予定をしています。そして、これまでも思いやりの心を育てる支援を続けていきます。

学校のたからもの④ 地域の方とのきずなを深める ふるさとふれあい活動

毎年十一月に、地域の方々に協力いただいて、「ふるさとふれあい活動」を行っています。

第一部 ふるさと清掃

鷺山地区をきれいにしようとして、学校と自治会が協力して清掃活動をしています。

清掃場所

一～三年生…町内
四年生………鷺山清掃

学校のたからもの②

異年齢での仲間作り はぐるま活動(縦割活動)

縦割集団活動を通して、楽しく活動しながら、互いのよさを知り、一人一人を大切に温かい人間関係を築くことをねらいとして、はぐるま活動を行っています。

はぐるま班は、一年生から六年生までの十人程度で編成されています。年七回の外遊びと年三回の室内遊びを行っています。また、

「一年生を迎える会」
「はぐるまオリエンテーリング」
「はぐるま大縄大会」
「六年生を送る会」
の、四回の集会を行います。



▲毎日の調理員さんへのあいさつ
「ごちそうさまでした。ありがとうございました。」



▲はぐるまオリエンテーリング
公園で遊ぶ子どもたち

五年生………鳥羽川清掃
六年生………運動場側清掃

第一部 ふれあい活動

地域の方を講師にお招きして、それぞれの学年が体験活動を行なっています。

体験活動

一、二年生…昔遊び

三年生………竹箒作り

四年生………鷺山整備

五年生………高齢者体験

六年生………戦時中の話

活動が終わったあと、講師の方からお帰りの際、「子どもたちから元気をもらいました。一緒にやって本当に良かった。」と温かい言葉をいただきました。子どもたちも充実感を持って活動できました。

この活動で、生活の知恵や地域の良さに気づかせていただくことができました。



ふるさとふれあい活動「昔遊び」



▲ふるさとふれあい活動「竹箒作り」



▲ふるさとふれあい活動「高齢者体験」



▲鷺山に植樹して記念撮影



▲ふるさとふれあい活動「戦時中の暮らし」



【みずほしりつ うしきしょうがっこう】

瑞穂市立牛牧小学校

- 住所 〒501-0234 瑞穂市牛牧1523番地
- TEL (058)326-3063
- FAX (058)326-7753
- メール ushiki@he.mirai.ne.jp
- 児童数 681人

▲昭和44年建築のモダンな校舎です。来年増築されます。



校歌

瑞穂市立牛牧小学校

作詞 鹿野耕一
作曲 上野忠平

一、伊吹の峰に風澄みて
光照りそう千町田の
垂穂の波の金色に
におうがごとく
生いたたん

二、ゆく水清き損斐長良
一つ心にむつびつ
なりわい興すみおやらの
久遠の理想
うけつがん

三、みどりに映ゆる金華山
千代に色増す若竹の
学びの道にいそしみて
穂積のほまれ
世に挙げん



▲悲しい思いは絶対させない！



▲児童玄関前でのあいさつ運動

『もくもく掃除』に取り組んでいます。私語なくもくもくと磨くようにしています。掃除の時間は、静かな中での掃除になるよう努力しています。また、秋の終わりににはシンボルツリーのけやきからたくさんの葉が

⑤ ③ころをこめた掃除

学校のたからもの

お兄さんお姉さんと遊ぶの楽しいな！▶



▲こころを込めてもくもく掃除



◀けやきのおち葉ひろいボランティア

学校の教育目標 『心の拓ける子～確かな学び・思いやりの心・たくましい体～』

沿革・地域の自然や風土

本校は、創立百四十年を迎えた伝統ある学校であり、地域の学校として根づいています。昭和四十六年から理科学習の研究に取り組み、SONY優良校や優秀校を受賞しています。岐阜教育事務所から研修校として指定され、管内の小・中学校の教育の改善・向上と教職員の資質向上にも努めています。現在は、理科学習とともに算数学習の研究にも取り組み、基礎基本の定着をはかり、分かったことを実感し、生き生きと学ぶ子どもの育成に取り組んでいます。

校区は、瑞穂市の南部に位置し、一帯は各河川の集まりにより昔から水との関いを強いられてきました。国道21号やJR穂積駅の近くにあり、交通の便の良さからも近郊都市として発展し、児童数も増加しています。

学校の教育目標

学校の教育目標『心の拓ける子～確かな学び・思いやりの心・たくましい体～』の具現に向けて、「笑顔あふれる牛牧小」を合い言葉に、「一人一人のよさを認め伸ばす教育を推進しています。そして、将来、子どもたち

学校の宝物

牛牧小では、牛牧つ子委員（児童会）を中心に、『牛牧つ子5つのすてき』として、「③つくしい歌声」「④んげんな授業」「⑤もちのよいあいさつ」「⑥ながりのある遊び」「⑦ころをこめた掃除」に力を入れて取り組んでいます。

① つくしい歌声

学校のたからもの

歌声のあふれる学校をめざして、朝の会で、「今月の歌」に取り組み、毎月一回歌声集会を行っています。歌声集会では「今月の歌」を全校で合唱したり、学年合唱の披露をしたりしています。

② んげんな授業

学校のたからもの

授業では、『聞く・話す』を大切にするため、四・五月に、相手の顔を見て話を聞く「顔聞き」や大きな声で話す「伝えよう発言」を徹底しました。全員が達成できたら、「反応聞き」「見わたし発言」など徐々にステップアップするようにしています。

また、ノートづくりも大切に、よいノートを掲示して、友達のノートのよいところから学ぶこともしています。



▲全校の前で合唱を披露する5年生



▲ちゃんと点くかな？



▲発言者に注目して（顔聞き）



高山市立岩滝小学校

●住所 〒506-0814 岐阜県高山市滝町220
●TEL (0577)31-1075
●FAX (0577)31-0003
●メール iwataki@edu.city.takayama.gifu.jp
●児童数 20名



◀豊かな自然に囲まれた校舎

校歌

岩滝小学校校歌

作詞 中舎高郎
作曲 中村好明

一、山山の ふところ深く
もえいずる 若芽よ我等
美しき 心のままに
すこやかな 力やしなう
あたらしき 望みはぐくみ
望みはぐくみ

二、谷川の せせらぎ清く
たゆみなぎ 流れよ我等
なごやかな くらしの中に
すすみゆく 力つちかう
おおなる 夢をめざして
夢をめざして



▲桜の木の前の全校児童

学校の教育目標 「やさしく かしく たくましく」

沿革 地域の自然や風土

本校は、明治七年岩井小学校和滝小学校在創立され、明治二十六年に合併。昭和二十二年に岩滝小学校と改称され、今日に至っています。本校は高山市街地より南東に十kmほど山麓に入った所に位置し、起伏の激しい地形や厳冬の中、すべての児童が遠距離を徒歩で登下校しています。児童数二十人の高山市唯一のへき地複式小規模校です。子どもたちは、何事にも生懸命取り組み、清掃活動や体験活動等ではよく働く素朴で明るい子たちです。

学校の教育目標

学校の教育目標は「やさしく かしく たくましく」です。キーワード「学校は磨き、鍛える場である」のもと、切磋琢磨しながら知徳体にわたって本物の力をつけるよう、地域とも連携しながら教育活動を展開しています。

学校のたからもの① 郷土から学ぶ・棚田

校区に「ぎふの棚田21選」に選ばれた棚田があります。五・六年生が総合的な学習で、

地域の方に田植えや稲刈りなどを教えてもらいながら米づくりをしています。そしてその成果を秋の学習発表会で発表し、保護者や地域の方にも参観してもらっています。また、地域を知る郷土教育の一環として、毎年春の遠足は全校遠足として地域を探索しています。焼岳噴火でできた大岩「桶



自慢の棚田▶

学校のたからもの② 心を一つにした合唱

少人数ですが、透き通った歌声が自慢の全校合唱です。高山市役所ホールでのランチタイムコンサートや東日本大震災復興応援歌「花は咲く」の合唱放映、同じ中学校区

の東小交流会や東山中交流会での合唱披露など、さまざまなところで歌声を披露しています。そして聞いてくださった方の感想が子どもたちの大きな励みになっています。

学校のたからもの③ 自分を磨くあいさつ・掃除

明るいあいさつと生懸命の掃除も宝物の一つです。今年度はあいさつの取り組みを、か



▲心を一つに歌う全校合唱

校内から地域へと広がっています。「地域でのあいさつができる子が増えてきた」という声が聞かれるようになってきました。また、掃除では二十人という人数で広い校舎を掃除するのは大変ですが、なかよし班（縦割り班）で毎日二十分間の掃除を時間いっぱいがんばっています。



▲時間いっぱい黙々と取り組む縦割り清掃

学校のたからもの④ 仲間と学び合う複式授業

低中高の三学級とも複式の授業です。今年度は「二人が確かな学力をつけるための授業づくり」というテーマで、共通点や相違点を見つけ自分たちで話し合いを深めていく中で確かな学力の定着を図っています。学習リーダーが授業を進めていく複式の学



▲学習リーダーが進めていく複式授業

学校のたからもの⑤ 伝統の花作り

びを、上級生から下級生へと継承しながら、本校の誇りある伝統としています。

FBCの入賞校にも何度も選ばれ、学校全体が花に囲まれています。今年度は人権の花運動の推進校として、自分たちの設計したメイン花壇を中心に花と思いやりの心を育ててきました。また地域の住民と合同開催する岩滝地区連合大運動会では、育てた花を地域のお年寄りにプレゼントし、大変喜んでくれました。



▲花と思いやりを育てる花づくり



▲お年寄への花プレゼント



【よろうちょうりつ とうぶちゅうがっこう】 養老町立東部中学校

●住所 〒503-1384 養老郡養老町下笠2769
●TEL (0584)35-2107
●FAX (0584)35-3282
●メール toubucyu@town.yoro.gifu.jp
●生徒数 407名(H26.10.31現在)

◀細池に映る養老山と学校



校歌



東部中学校校歌

（部分二部合唱）
作詞 野田満
作曲 西村昭平

一、ふるさとに日はさしのぼる
若人のいのち燃え立ち
ひたすらに歩みゆくなり
野に光る真直ぐなる道
はつらつわれら
東部中学校

二、養老のその名ぞゆかし
すがしくも この学びやに
うちそらい いそしみ学ば
そのかみの 父祖の英知を
うるわしわれら
東部中学校

三、若き日の力あたらし
ともどもに手と手をつなぎ
吹きすさぶ伊吹おろしに
鍛え合うところと技を
たくましわれら
東部中学校

四、三川の治水のあとの
松が枝に風の鳴る日は
夢はるか未来へつなぐ
ゆたかなる大地に立ちて
いざ立てわれら
東部中学校

学校の教育目標 「強く豊かに生きぬく生徒」 — 自主・協力・鍛錬 —

学校の教育目標

「強く豊かに生きぬく生徒」

— 自主・協力・鍛錬 —

自主Ⅱ一人ひとりが具体的なめあてをもち主体的に実践できる生徒

協力Ⅱやさしく思いやりの心をもち、友達と協力できる生徒

鍛錬Ⅱ苦しさに負けないで、心身を磨き鍛える生徒

歴史から学ぶ

宝暦治水における大牧薩摩工役館跡が校区内にあり、薩摩義士の「遺徳」を大切にしています。

その縁から鹿児島県鹿児島市立甲東中学校との交流を毎年

学校の沿革

昭和五十五年四月七日に、笠郷中学校（笠郷地区）・今尾中学校に通っていた池辺地区・養南中学校に通っていた上多度地区・高田中学校に通っていた広幡地区の生徒が通う学校として、開校しました。

環境に恵まれた田園地帯にあります。校区には、広幡小学校・上多度小学校・池辺小学校・笠郷小学校の四つの小学校があります。

行っています。

また、自然災害の恐ろしさを忘れないように昭和三十四年八月十三日の集中豪雨（一六六三㎜）と、九月二十五日の伊勢湾台風（二二四㎜）による水害の時の浸水水位を示すモニメントが校内に設置されています。

モニメントの写真の上の輪が、集中豪雨時の水位で、下の輪が伊勢湾台風時の水位です。



▲生徒昇降口に掲げられた宝暦治水の足跡



水位のモニメント▶

学校のたからもの 2 キラリ活動

キラリ活動（良さ見つけ）を全教育活動の中で実施しています。



▲キラリカード

学級内だけでなく、学年や学年を超えた異学年間、部活動内等あらゆる関わりの中で感じたり見つけた良さをキラリカードに記入し、相手に届けています。

そして、保護者も授業参観や行事で見つけた良さをキラリカードに記入し、子ども達に伝えています。

卒業生は、キラリカードで一杯に飾られたキラリロードを通じて、卒業式に向かいます。

学校賞

毎学期、自主・協力・鍛錬に基づいて努力をした生徒に、学校賞が贈られます。

学校のたからもの 6 合唱

校歌は部分二部合唱です。毎日、短学活の時には、合唱時間があり、時には合唱交流も行っています。そして、下校時には、前年度の卒業生の合唱（録音されたCD）が流れ、その歌声を聞きながら下校しています。



▲3学年の合唱練習風景

学校のたからもの 7 私語ゼロ掃除

私語をせずに集中して掃除に取り組むことを、生徒会の発案で伝統として引き継がれています。



▲▶膝つき私語ゼロ掃除

学校のたからもの 5 東部の日

月の最初の「週間」に「東部の日」があります。



▲今年度の各団の団旗



▲今年度の黄団の応援

この週の当番になった学年と生徒会執行部の生徒は、生徒昇降口であいさつ運動をします。

また、この日には、ペットボトルキャップ、インクカートリッジ、アルミ缶を回収します。そして、募金活動も行っています。

回収物や募金で得た収益金を、被災地等に寄付しています。



▲あいさつ運動

わが子のあゆみ

2015.1 No.436 初春号

表紙 多治見市立脇之島小学校

学校のたからもの 1
岐阜市立鷺山小学校／瑞穂市立牛牧小学校／高山市立岩滝小学校／養老町立東部中学校

わが家の宝物 恵那市立東野小学校PTA 山内志保 9

特集 地域の中で共に生きる一障がいの有無をこえてー 11
岐阜県教育委員会特別支援教育課課長 安田和夫

家庭教育応援団！⑭ 美濃加茂市富加町中学校組合立双葉中学校
関市立桜ヶ丘中学校 下呂市立馬瀬中学校 17

シリーズ「療育」⑲ 岐阜県立下呂特別支援学校 19

お弁当の日 飛騨市立古川西小学校PTA 21

保健室ノート 羽島市立羽島中学校養護教諭 大橋由美 23

私の先生⑭ 土岐市立土岐津中学校教諭 小池智明 25

子育て半生記 飛騨市立河合小学校PTA会長 玉腰浩一郎 27

ボランティアニュース [vol.3] 29
可児市立旭小学校PTA
可児市立東明小学校PTA
可児市立蘇南中学校PTA
可児市立東可児中学校PTA

私が出会った1冊の本【続20】 31
可児市立春里小学校PTA会長 佐伯哲也
揖斐郡大野町立揖東中学校PTA会計 竹中けいこ

わが家のルール 33
大垣市立一之瀬小学校PTA会長 若山康裕
岐阜市立青山中学校PTA会長 水野吉近

子の思い・親の願い・教育の窓 35
子の思い
羽島市立正木小学校 3年 内藤仁美
多治見市立養正小学校 6年 福田零華
養老町立高田中学校 3年 鈴木里奈

親の願い
瑞穂市立本田小学校PTA副会長 日比野和江
美濃加茂市富加町組合立双葉中学校PTA会長 酒向和幸
教育の窓
北方町立北方小学校校長 河村正志
高山市立朝日中学校教頭 中村希志

親子ではてな 40
インフォメーション 41
お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42
里芋の味噌チーズ焼き

ふるさとの伝承
白川村立白川中学校 43

きらり!キッズ!
郡上市立八幡小学校 45

夢中!熱中!我らが部活
岐阜市立長森南中学校 47

私たちのPTA
大垣市立赤坂小学校 49

わが家の宝物

恵那市立東野小学校PTA
山内 志保



アラフォーになっても、私は、まだ母が恋しいというのに、もう既に親離れの片鱗を見せ始めている息子たち。もちろん二人とも主人と私のかけがえのない宝物なのですが、私の方が子離れの準備が整わず、モヤモヤした気分で、予測不能なツンデレに振り回されながら毎日、孤軍奮闘しております。

これまでの子育てを振り返ると、山あり谷あり…どちらかと言えば谷が多かったかもしれません。くじけそうになる出来事も度々あり、私には子どもを持つ資格がなかったのかも知れない、と思い込み、殻に閉じこもった時もありました。その都度、子どもたちの為にと立ち直り続け、今があります。色々な辛かった出来事も悩み苦しんだ日々も今では私の糧になり、思考を大きく変え、心を強くしてくれました。子どもたちが私を人間として成長させてくれたのです。

そして、私には主人をはじめ、子ども、両親、友人たち…いつも励まし支えてくれる人がいます。悩みを共有し、優しく厳しく導いてくれる、この人たちこそ私の“宝”です。これからも子どもたちは、私に沢山の試練を与えてくれるでしょう。どんな時でも、母の言葉『お母さんは家の太陽』を心に、笑って楽しく暮らし、子どもたちを照らし続けていきたいと思っています。



地域の中で共に生きる

― 障がいの有無をこえて ―



岐阜県教育委員会特別支援教育課課長

安田 和夫



第二次岐阜県教育ビジョン

岐阜県教育委員会では、平成二十六年三月に発表しました「第二次岐阜県教育ビジョン」において、「卒業後を見据えた特別支援学校の充実」を重点政策に掲げるとともに、基本目標のひとつの柱として「特別支援教育の充実」を位置づけています。

重点施策「卒業後を見据えた特別支援学校の充実」では、急増する軽度の知的障がいのある生徒を教育の対象とし、一般就労をめざし社会自立できるように新たに整備される平成二十九年四月開校予定の岐阜高等特別支援学校（仮称）を中心に、県内の特別支援学校全体の職業教育、自立教育の充実を図るというものです。

基本目標「特別支援教育の充実」では、特別支援学校はもとより、幼稚園、小中学校、高等学校等、すべての学校において、障がいの有無に関わらず、幼児児童生徒一人一人の多様なニーズに対応した学びのスタイルの構築をめざして

いこうとするものです。

これは、「インクルーシブ教育」という考え方に基づいています。聞きなれない用語かもしれませんが、日本でも、平成二十六年一月に批准された「障害者の権利に関する条約」の中で使われています。

人間の多様性を積極的に受け入れ、障がいの有無に関わらず、一人一人が持ちうる力を最大限に発揮できる教育の在り方であり、共生社会の基礎を形成するための障がいのある者となない者が共に学ぶ仕組みとも言えます。

ただ、同じ場所で学ぶことだけを意味するものではありません。同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが必要とされています。

すなわち、小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といっ



交流籍とその活用

この「居住地校交流」は、何年も前から実施していたにも関わらず、思うようには広がっていきませんでした。平成二十四年には、小学部の児童で三十一％、中学部にいたっては、九％の実施率にとどまっていました。この背景には、特別支援学校の児童生徒のための居住地校交流という意識があったことによる小中学校の負担感、保護者が強く望み初めて実現するという手続き、周囲の理解不足や誤解など、さまざまな課題があったと考えられます。

た、連続性のある「多様な学びの場」を用意するとともに、それぞれの特色を相互に生かし組み合わせることにより、より質の高い教育を提供する学校の種別を超えた連係プレーが今まで以上に重要となっていくのです。



居住地校交流のねらいと内容

「居住地校交流」というのは、特別支援学校に通う児童生徒が自分の居住する地域の小中学校の児童生徒と共に「交流及び共同学習」を行うことです。

特別支援学校で学んでいる児童生徒にとっては、地域の同世代の子どもの交流等を通して、地域の一員としての自覚が芽生えるとともに、仲間から様々な刺激を受ける中で自立や社会参加に対する意欲が高まり、社会性を広げることにつながります。また、小中学校の児童生徒にとっては、障がい

の正しい理解を深める中で、共に助け合い、支えあって生きていくことの大切さを学ぶことができます。特別支援学校にお子さんが通うあるお母さんは、就学先の決定に悩みぬいた頃を思い返ししながら次のように話しておられます。「地元から離れた特別支援学校に通うことで、地域の生活から離れてしまうのではという不安もあり、また、（幼稚園まで）ともに過ごした仲間との別れがさみしく、このままつながりを持ちたい気持ち強くあり、居住地校交流を希望しました。」

このように、特別支援学校だけでは得られない経験を深めることを望んでおられるのです。居住地校交流により、それぞれの子どもが、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、互いに生きる力を身に付けていけることが期待されています。

そこで、平成二十五年四月、飛騨市に飛騨古城特別支援学校、下呂市に下呂特別支援学校がそれぞれ開校するタイミングで、飛騨地域全体を「交流籍を活用した居住地校交流促進事業」のモデル地区指定をしました。

この「交流籍」というのは、居住地校に、特別支援学校の児童生徒のもうひとつの籍、居場所をつくるということです。もちろん、

法律の枠組みでは、二つの学校に同時に学籍をおくことはできませんので、形式的なものともいえませんが、これにより「Aさんは、〇〇特別支援学校に通っているけれど、〇〇小学校の同じ仲間なんだよ。」という認識を子ども達、ご家族、学校関係者、地域の方々が共有できると考えたのです。

居住地校になった小中学校では、Aさんのための机やいす、ネームプレートが準備されたり、Aさんの名前も入った児童生徒名簿が準備されました。ご家庭向けに配布される学校通信や学級通信にもAさんの話題が掲載されたこともありました。こうして受け入れ準備が進み、「Aさんの居場所づくりに」が様々な形で進められていったのです。また、直接交流する前に、プロフィール交換や作品交換が行われ、子どもの中に、「早く会いたいな」と直接交流を待ちのぞむ雰囲気を作られていきました。

こうして、たとえば、特別支援学校を「学びの場」としていても、地域社会の中で積極的に活動し、

その一員として豊かに生きることができるよう、可能な限り共に学ぶことができるような取組が始まっていったのです。

この取組の中で、大きな役割を果たしていただいたのは、高山市、飛騨市、下呂市、白川村の各町村教育委員会でした。

飛騨地区の各町村の教育長さんは、「この取組は、これからの共生社会を築く上で、とても重要なことだ。」と言っていただき、力強く、このモデル事業を推進していただきました。

実は、小学校に入学する際に、その年齢に達した児童には、必ず「学齢簿」という書式が事前に教育委員会によって作成されます。この中には、四月からの学校に通うのか書き込まれることになっています。すなわち、小学校、特別支援学校等、いずれかの学校名が書き込まれるのです。

そこで、今回、特別支援学校に通う児童生徒の学齢簿には、「交流籍校」である小中学校名も記入していただくようお願いしました。

これにより、各教育委員会において、特別支援学校に転入学し通う児童生徒の成長や動向について、就学時だけではなく、継続的にフォローしていく意識が高まってきました。

高山市では、この取組が進む中、昨年度の秋より児童生徒一人一人の現状を把握し、よりよい就学先や教育環境を検討する委員会において、県立特別支援学校に通う児童生徒についても同様に検討対象とする改善が図られました。

これは、画期的なことです。学びの場が違っていても、県立市立違っていても、同じ高山市の児童生徒だということを制度面の改革により、示していただきました。当時の飛騨特別支援学校の校長が、私に感激して電話をいれてくれたことを今も思い出します。

こうした飛騨地区の取組は、カラーリーフレットに成果をまとめ、県内すべての小中学校、教育関係者、療育関係者等に配布しました。

平成二十六年年度より、県内全域で「交流籍を活用した居住地校交

男児が、単眼鏡を使って板書を確認したり、ノートを目に近づけ、確認しながら自分の意見を発表したりする場面がありました。当然の配慮として学級の児童が受け入れていることがよくわかりました。特別な扱いではないのです。それが当たり前での支援であり、必要な配慮なのです。

このように、共に学び生活するうえで、一人一人のニーズに応じた具体的な支援内容を「合理的配慮」と言います。

この小学校では、男児が共に学ぶ中で、視覚障がい（弱視）の児童生徒に対する「合理的配慮」の実践を積み重ねているといえます。

引率してきた岐阜盲学校の先生は、この男児が、みんなの前で自分の意見を説明したり、とっさに意見を述べるといふ経験が少なく、苦手意識を持っていたが、この居住地校交流を継続することにより、挙手して発表する積極性や自分の考えとは違う仲間の意見を聞くことによって、幅広いものの見方や多様な求め方を身に付ける

ことができるようになり、大きな成長がみられると言っておられます。

また、男児本人は、この授業を振り返り、「今まで、居住地校に行ったときには自信がなくて、ほとんど手を挙げることはありませんでした。でも、比で数直線に表す時には、ちょっと自信があったので『間違っているかもしれないけれど、とにかく発表してみよう』と思います」と言っていました。

また、感想を述べています。また、多様な考え方に気付いた面白さについて「一人学びの時には式を書いて答えを求めたものの、納得がいなく答えにならなくて困っていました。話し合いでは友達を発表を聞いていました。少し難しかったけれど、自分と違った考え方を聞いて、なるほどと思いました。交流の授業は、いろんな考えがあるの面白いなあと思いました。」と振り返っています。

中学校での取組についても紹介します。昨年度一年間、高山市内の小中学校に、飛騨特別支援学校高山日赤分校の高三男子生徒が居住

「流」を導入しましたが、比較的にスムーズに移行できたのも、飛騨地区のモデル事業のおかげといっても過言ではありません。

子ども達の変化

それでは、この居住地校交流により、共に学ぶ子ども達の様子を紹介いたします。

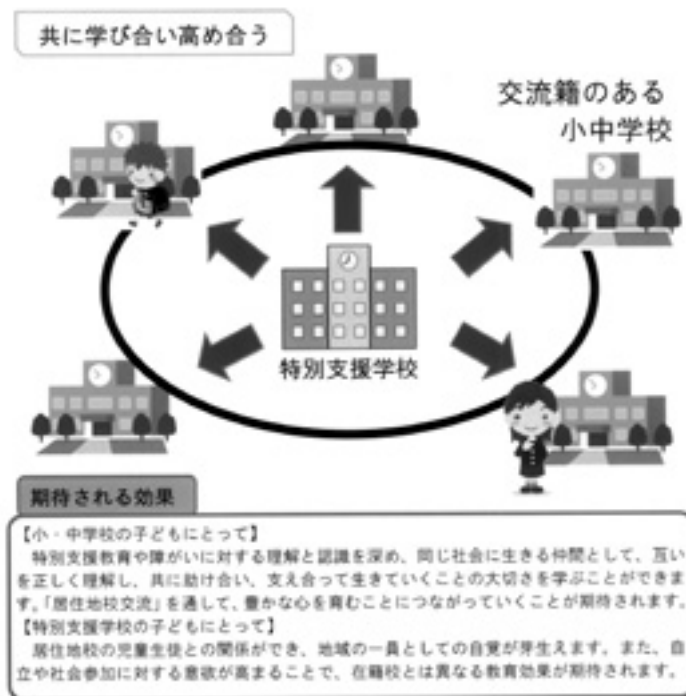
先日、ある小学校で、岐阜盲学

地校交流をしました。実は、男子生徒は以前、居住地校において不登校経験を重ねたため、交流の相手校として、あえて、家から離れた別の中学校に交流をお願いすることになったのです。

こうしたケースは、特別な事情として認められています。

交流及び共同学習は、国語、英語、理科、体育などの教科学習を中心に進められました。当初、お互いに緊張もしていましたが、会話も進みませんでした。夏ごろになると、気持ちも和らぎ、お互いが交流の機会を待ち遠しくなっていましたと言います。いつしか、中学校の生徒から、授業や体育大会の招待状が届くようになりました。

もともとこの中学校は小規模の学校で、一学級の生徒数も少ないため、特別支援学校の生徒が来てくれて、いろいろな話を聞かせてくれることは新鮮で興味深いものでした。不登校を経験しても、高山日赤分校で、将来の夢を持ちつつ、日々、頑張っている彼の思いや考え方を知れることは、中学校の



みんなにとっても大きな成長となりました。

特別支援学校の生徒は、中学校の英語の授業が、オールイングリッシュで進む様子を驚いたそうです。中学校の生徒は、ペア学習で友達と積極的に意見を出し合う男子生徒の様子をみて、彼の素晴らしいに気付き、同じ中学生として仲間意識を高める機会になったそうです。

たとえば、居住地は違っていても同じ高山市の中学生として、お互いが高まりあえる居場所づくりに取り組んだ一年間の取組は両者にとって、大きな成長につながりました。

現在は、それぞれ高等学校に進学し、夢を描いて頑張っています。

保護者の意識の高まりと変化

保護者、ご家族の方々の思いはこの事業を進めるにあたって、とても気がかりでした。

これまで、様々な形で、地域とのつながりを求める保護者の声を聞いてきたものの、一方で、ある

体育大会なので、生徒が口々に「こ

実践紹介2 関市立桜ヶ丘中学校

ポイント ○講演会で学んだことを家庭で広めるために一工夫

10月11日、桜ヶ丘中学校では、土曜参観日に合わせて第2回親子講演会が開催されました。親が子どもと向き合う第一歩は「挨拶」。特に、「ありがとう」の言葉を大切に、親子でメッセージを伝え合いたいというねらいで行われた講演会には、全校生徒と保護者合せて650人が参加しました。

① 授業参観 → ② 親子講演会 → ③ 親子メッセージカード交換

② 親子講演会 講師：廣中邦光氏

「平成の駆け込み寺」として、問題を抱える思春期の子供を無償で預かり、子供の自立と社会復帰を支援する活動を続けている廣中氏。会場の中を「ありがとう」と握手しながら移動され、感謝の心や半歩踏み出す勇気の大切さについて情熱的に語られました。

③ 親子メッセージカード交換

講演会での学びを、各家庭で実践して広めるために、「ありがとうメッセージカード」を親子で交換する取組を行いました。



感想より
子供は決して悪くない。
一歩じゃなくて半歩踏みだそう
という言葉が心に
残りました。

実践紹介3 下呂市立馬瀬中学校

ポイント ○行事の後の時間を生かして親子の体験活動を仕組む

馬瀬中学校では、8月24日の午前に資源回収と環境整備作業が行われ、午後に「親子コミュニケーションの会」として、地域特産のお菓子「あねかえし」作りに挑戦しました。「あねかえし」の「あねる」は、この地方の方言で「混ぜる」という意味です。保護者が講師を務め、グループに分かれて、材料をあねたり丸めたりしながら、親子で楽しい会話が繰り広げられ、笑顔の絶えない会となりました。

～ある父子の会話～（生地にもぎを入れ、しゃもじで「あねる」作業を始めた子供を前に）

父 「おい、ひしゃくの持ち方が違うわい！ …ん？ ひしゃく??」

息子「違うよ、お父さん。しゃもじ！ 恥ずかしいから黙って!!」

父 「あつ、しゃもじ、しゃもじ… 」（鼻歌まじり）」

息子「もう、誰か〜、お父さんを止めて〜。お願い〜、黙らせて〜。」

感想より
男親なのでこういう活動では何を
していいかわからないのですが、
子供のいい表情が見られてよかったです。
会話があまりないけど、
話しかけてみます。



編集後記

○良さを広げる

最近の家庭教育の取組を見ていると、学びの場になりたいという意識が、学びを広げようという工夫が多く見られるようになってきた。このことでは、どうすればより多くの参加者が集まるのか、どうすれば多くの者が満足する学びの場となるのか、どうすれば学んだことをより多くの仲間、学年に伝えられるのか、それぞれが、互いの実践を交流しながら、新たなヒントを得て、活動にいかしていただく。

お気軽にご相談ください！

家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

岐阜教育事務所	058-278-3059	(直通)
西濃教育事務所	0574-733-1011	(4)
美濃教育事務所	0575-333-4011	(4)
可茂教育事務所	0574-253-4011	(4)
東濃教育事務所	0573-226-1111	(4)
飛騨教育事務所	0577-333-1111	(4)

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！ぜひご覧ください！！

—掲載内容—

・平成23～25年度家庭教育学級の実践
・家庭教育学級マニュアル ・家庭教育プログラム（乳幼児期編）

岐阜県 家庭教育学級

検索

実践紹介1 美濃加茂市富加町中学校組合立双葉中学校

ポイント ○県が主催する消費者教育事業を活用して多彩な講座で学ぶ

岐阜県教育委員会では、平成24年度から、自立した賢い消費者の育成をねらいとする「消費者教育スモールステージ開催事業」を実施しています。この事業では、小・中学校の児童生徒と保護者、地域住民を対象に出前講座や啓発ステージを行うもので、今年度は県内の6会場で実施します。今回は、10月1日に実施された双葉中学校の様子をお伝えします。

大人になってから困らないお金のキホン

講師：岐阜県金融広報委員会

「お金はなぜあるのか」「お金に泣く人、笑う人の違い」など、お金に困らない人になるためには、どのようにしたらよいのか、話や歌を聞きながら考えました。



独占禁止法教室 ～私たちの暮らしと市場経済～

講師：公正取引委員会事務総局

社長になってライバル社との競争方法を考えるといった参加型シミュレーションゲームを通して、市場経済や競争について学びました。



賢い消費者になろう！

デジタル芸人アキラボーイ



ネットで買い物をする時にどんな落とし穴があるのか、スクリーンの中の「タヌキチ君」と一緒に疑似体験しました。



「お金はじょうずに使おう」をテーマに「お金の役割」や「お金のじょうずな使い方」について考えながら学びました。1億円の模擬紙幣を持ちあげる体験もしました。

講師：株式会社十六総合研究所

お金はじょうずに使おう！

すぐろく形式のゲームを楽しみながら、年代ごとにどんなライフイベントやリスクが考えられるのか、それに対してどう備えればよいのかについて学びました。

講師：第一生命保険株式会社

ライフサイクルゲームⅡによる
消費者教育・金融教育

保護者の感想より

クイズ形式で楽しくわかりやすかったです。これから大人になり、社会人となっていく子供ともお金の使い方などを話し合っていきたいと思います。

生徒の感想より

ゲームで無料とあるものは躊躇せずクリックしているので、それは危ないことだと思った。これからは説明をしっかりと読んで考えてからにしたいです。



1 学校の特徴

○学校の特徴

本校は、平成二十五年度に開校した新しい学校です。知的障がい、肢体不自由、病弱を対象とした総合化された特別支援学校です。

前身は、飛騨特別支援学校の下呂分校です。県が策定した「子どもがやきプラン」では、平成二十



▲校舎全景

2 各学部の取組

本校は「地域社会で主体的に生活する力を育てる」という教育目標掲げて各学部の取組を行っており、地域に根ざした学校として教育実践を展開しています。

○小学部

小学部の重点は、「笑顔一杯、楽しく！」です。児童の興味・関心に合わせた集団遊びを中心として、基本的な生活習慣や基礎体力の確立を図っています。近隣施設を活用して公園遊び、水遊び、買い物学習等を行いながら、健康的な身体



▲小学部 生活単元学習

を作り、みんなと仲良く遊び、自分のことは自分でする教育活動をしています。音楽遊びや感触遊び等も取り入れ、身体いっぱい活動を楽しみ、いきいきと生活する力もつけています。また、個別の課題に応じた活動も大切に、国語や算数、自立活動の時間には、聞く、読む、話す、書く、計算する、触れ合う等の取組を繰り返し行い、自分の良



▲中学部 宿泊学習

○その他

中学部と高等部では、部活動を行っています。サッカー部と美術部があり、月曜日と水曜日の放課後に活動しています（サッカー部は土曜日の午前中も活動）。

また、高等部は、総合的な学習の時間で「湯ヶ峰太鼓」の活動をしています。地域の龍神太鼓保存会の方の協力を得て、毎週一時間の練習を行っています。練習した成果は、「湯ヶ峰フェスタ」や地域のイベントで披露しています。

3 PTA活動の紹介

本校のPTAは、本部役員を中心として、進路・研修、広報・環境整備、厚生などの専門委員会が構成され、保護者はいずれかの委員会に所属して活動を行っています。

進路・研修委員会では、児童生徒の進路について、知識や理解が深められるような活動を行っています。地域で積極的に障がい者雇用を行っている企業や事業所を見学する「PTA施設見学会」（年一回）、障がいや福祉に関わる専門家の講話を聞く「PTA講演会」（年一回）を行っています。

広報委員会では、保護者の方に、PTA活動や学校活動等についての理解や協力が得られるような広報

ます。春の遠足や宿泊学習、夏祭り等の活動に取り組みました。その中で、けいちゃんやトマト井、朴葉寿司等の地域の特産品の調理活動を行いながら、仲間と協力したり、五感を通して地域理解を深めたりしています。

また、作業学習では、働く意欲を育てることを柱として、布製品作りに取り組んでいます。ミシンがけやアイロンがけ、しぼりやステンシルでの模様付け、トレイを活用したクッション材作りを行い、生徒がそれぞれ得意なことを生かして活動しています。

○高等部

高等部の重点は、「自分らしく、たくましく！」です。卒業後の生活に向けて、作業学習を中心として、職業に関する態度や知識、技能の確立を図っています。作業学習は、窯業班（陶器製品作り）、木工班（木材加工製品作り）、縫工班（さをり織りを生かした布製品作り）の三つの班があり、生徒の適性に合わせた活動を行っています。作った製品は、学校祭「湯ヶ峰フェスタ」や地域のイベントに出店し、販売活動も行っています。

また、一年生は校内作業実習を行い、箱折りやバリ取り等、地域の企業から委託された作業に取り組み、働く生活に向けた基礎的・基本



▲高等部 販売活動

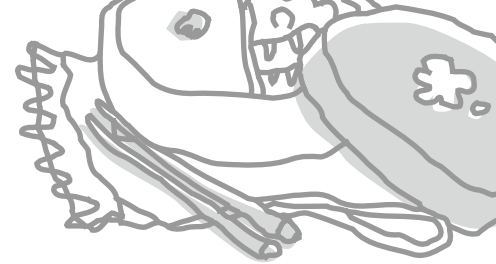
誌の発行をしています。「森のなかま」と題して、各学部の活動やPTA活動の紹介、お楽しみコーナーという内容で、年三回発行しています。

環境整備委員会では、学校施設を維持・整備できるよう、校内清掃やグラウンド整備、資源回収を行っています。運動会「けやき祭」に向けて、グラウンドの草取りや石拾い等をして、児童生徒が気持ちの良い環境の中で運動会ができるように活動しています。

厚生委員会では、教育環境が豊かになるような活動を行っています。「湯ヶ峰フェスタ」では、昼食時間に食べ物バザーを開き、児童生徒と保護者・教員が一丸となつて、学校祭を盛り上げられるような活動をしています。

どのPTA活動においても、保護者の参加率が高く、お互いが「顔が見えるネットワーク」をもちながら、和気あいあいと児童生徒の成長を見守っています。





お弁当の日

飛騨市立古川西小学校PTA

やってみよう親子でふやそう 家族の宝物

本校PTA母親委員会では、『やってみよう親子でふやそう 家族の宝物』というスローガンのもと、食育や読み聞かせなどを行っています。食育では、お弁当作りを通じて、食のあり方を考え、感謝する気持ちを育んでいきたいという願いから、『お弁当の日』を実施しています。実施にあたっては、1学期から段階的に食育行事を行い、最後に『お弁当の日』を迎えられるよう計画しました。

●「空弁当の日」(高学年対象)

これは、普段自分が使っているお弁当箱に給食を詰めてみようというものです。事前に配布されている献立表を見て、親子で彩りよく詰めるにはどうしたらいいかを考え、バランや仕切り、カップなどを準備して、当日は空っぽのお弁当箱を持って登校します。給食の時間に、配膳された給食を各自のお弁当箱に詰めました。5年生は初めてなので、栄養士さんから主菜・副菜などの説明を聞いてから彩りを考えながら詰めていきました。

●「おにぎりDay」やってみよう親子でおにぎりづくり(全学年対象)

これは、夏休みの各家庭都合のよい日におにぎりを作ってみてくださいという行事です。昨年までは新米のとれる秋にやっていたのですが、平日の朝、全学年対象というのはなかなか大変だという声もあり、比較的取り組みやすいと思われる夏休みに行いました。各家庭でのおにぎりづくりの知恵や食中毒の予防を考えながら、取り組んでもらいました。

家族みんなで作ったおにぎり、家族みんなの分を作ったおにぎり、キャンブやバーベキューなど夏休みならではのイベントの時に作ったおにぎりなど、とても温かい雰囲気が伝わってくるレポートがたくさんありました。夏休み作品展の際に、力作のおにぎりたちを掲示させてもらいました。

●いよいよメイン「お弁当の日」

毎年1回、土曜日に家族参観日が行われますが、その日は給食がありません。保護者の方もお休みの方が多く、親子で取り組みやすいと考え、わが校のお弁当の日は、ほぼ毎年この家族参観日に行われています。

今年も、*完璧弁当(自分一人で)、*親子弁当(親子一緒に)、*お手伝い弁当(主に親が作る)の3つのコースのどれかに、無理のないところでチャレンジしてもらいました。事前に計画表を配布し、それをもとにお弁当を作

子どもの感想

- ・おかさんといっしょにつくってたのしかった。(1年生)
- ・自分で作るとおいしいんだなと思いました。(3年生)
- ・こんど、お父さんのお弁当づくりも手伝いたいと思いました。(4年生)
- ・初めて一人で作ってみたけど、バランスよくすき間なく詰めるのは大変でした。完成したお弁当を見たときは、とってもうれしかったです。(6年生)

保護者の感想

- ・自分で作って大変だったようで食への関心が出たようです。
- ・自分でメニューを決めて買い物も行き、自分で作れたことで『自分でできた感』が持てたようです。
- ・私自身も、材料を書き出してみると、副菜が少ないことに気づくことができました。今後のお弁当作りに気を付けて作ってみようと思います。

りました。

当日は母親委員が各教室をまわり、子供たちの力作を写真に撮りながら話を聞きました。「朝、5時に起きて作ったよ!!」冷凍食品を1つも使わないで作ったよ!!」など、子供たちのキラキラした笑顔と素敵なお弁当が、とても爽やかでした。

◆今後に向けて

土曜日であったことや、お弁当作りの回数を重ねていることなどから、各家庭色々な工夫をしてこの日を迎えてくださったことがレポートから伝わってきました。何よりうれしかったのが『次は、...』という感想が親、子ともに非常に多かったことです。食への意識の高まりを表すものであり、私たちの目指すことの一つであったからです。

お弁当の日行事が定着してきたことを感じられたので、今後も無理なく食に関わる食育行事として続けていきたいです。



夏休み作品展「おにぎりDayコーナー」



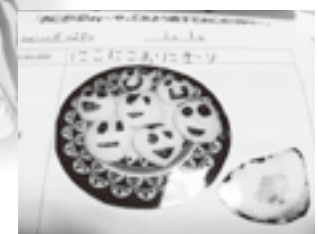
力作ぞろいのキャラ弁



「空弁当の日」
5年生の栄養職員による指導



給食を弁当箱に移して
盛りつけました



「おにぎりDay」報告書



母親委員会だより



笑顔いっぱいのお弁当タイム

保健室ノート

●羽島市立羽島中学校養護教諭
大橋 由美

いろいろな役割がある
保健室!?

結構ヒマだと思われがちな保健室。でも毎日、子どもたちは様々な理由で保健室にやってきます。体調不良やけがは勿論のこと、ボタンが取れたから付けてほしい、忘れ物したから貸してほしい、服が汚れたから着替えを貸してほしい、ある時は何だか学校に来たくないという訴え、などなど。ボタンは家で付けてきて欲しいと思いつつ一緒に付けていると、実は家庭でこたえたが辛くて辛いこと、体調不良を訴えるけれども実は悩みを抱えていてモヤモヤしていることなどが分かってきます。家

えることができず、ずっと我慢し続けて過ごしてきたようです。そのため大人に反抗する子がうらやましくなり、ある時とうとう我慢の限界がきて、いけない事と分かりつつタバコやお酒を始め、本当の気持ちをこまかすようになったそうです。そして自分を嫌いになり、こんな自分はどうなってもいいと、最後には薬物に手を出してしまいました。

この話を聞いて私は、自分は家族に大切にされている、愛されている、どんな自分も受け入れてくれる家族・大人がいてくれると、安心して生活ができるような環境、愛情を伝える事、その子なりの良さやがんばりを認める事が大事だと改めて思いました。

何だか慌しい今の世の中。保護者の皆さんも仕事で疲れ、仕事から帰ると食事の支度、お子さんの習い事の送迎、家族の介護など時間に追われて、つい子どもの気持ちを聴くのが後回しになったり、大人の考えを

自分のこと、

大切だと思えるようになってほしい…!

庭のことなど、子どもは子どもなりに耐えたり我慢したりしているのだと感じます。大人ならある程度、時間やお金を使ってストレス発散ができますが、子どもでは自由にそんなことはできず、学校に来たら目いっぱい活動が入っていて…。そんな時は保健室で少し心を休憩させてあげればいいかなと思いい、その子の背景も考えながら接するように心がけています。次の日、「あつ、先生！おはよう。」と笑顔で元気な姿を見せてくれると本当に嬉しく思います。

講演会で感じた子どもの良さを認めること

先日、校内で「薬物乱用防止教室」を行いました。講師は、岐阜ダルク（薬物依存症におちいった人達が回復を目指すリハビリ施設）に所

伝えるだけになったりすることがあるかもしれません。小さい頃から、自分の気持ちを聞いてもらえなかった子は、自分の気持ちを言葉で表現するのが苦手なように思います。以前、小学校に勤務していた時、体調不良を訴えてよく保健室に来る子の様子をみてみると、本当は親さんに甘えたいのかも…と思うことがよくありました。甘えたい時に甘えられずにいると、その不満は何らかの別の形でいつか出るように思います。

家族で、あるいは家族の誰かが子どもの気持ちを聴きながら愛情を言葉やスキンシップで伝え、あなたは大切な一人だというメッセージを送り、「自分は大事な一人だ。」と思えるようになって欲しいと思います。そのためにも学校と家庭で協力していく必要があります。

たくましく生きていつて
欲しい

保健室に来る子たちの要求をすべ



▲「また明日ね！」



▲家庭に帰る生徒たち。



▲相談のったり、
けがの手当てをしたり。

て叶えることが優しさではないと思います。たくましく生きていくために、時には厳しく、困っている時には力になれるように…そういう私も忙しさと短気にならないよう努力し、その子のよさを見つけて、一人一人が生き生きと過ごせるようにお手伝いしたいと思う毎日です。

属しているお二人（AさんとBさん）で、以前に薬物を使ってしまい、立ち直るためにダルクに所属している方です。薬物を始めてしまったきっかけや、その後の苦しかった様子などをお話しされ、皆さんには絶対にこのようなことはしてほしくないという内容でした。お酒・シンナー・精神安定剤・睡眠薬・かぜ薬・痛み止め、そして覚せい剤などを身近な人から勧められ、始めてしまったそうですが、その中で気になったのは、「自分のことが嫌い、自分は大切な一人だと思えない状態だった。」ということです。Aさんは、家族から「あなたは背が高く醜いわね。」と言われ続け、自分は醜くてだめな人間だと思ふようになってしまったそうです。Bさんは、いつも親の言う事を聞き、不満があっても自分の思いを伝

「それでいいんだよ。」「それでいいのか。」

土岐市立土岐津中学校 教諭

小池 智明

教員生活十四年目をむかえ、多くの先生方にご指導をいただき現在に至っています。私が教師を目指すことになったきっかけを考えてみると、両親の言葉が思い浮かんできました。親であり師である両親について述べたいと思います。

私の父は、「○○であるべきだ。」「○○でなければならぬ。」といつも言う人でした。ですから、私は幼いころより、「こういうときは、こういうふうにならなければならないんだ。」「ここでは、こうしてはいけいないんだ。」と考えることが常でした。「ねばならないこと」が、身の回りに溢れていました。

一方で、母は、私のすることすべてに賛成する人で、「もう、そんなことが分かるの?」「へえ、すごいねえ!もうできるようなったんか。」という言葉は何度もかけてもらいました。何かにつけて、私のすることを褒めたり励ましたりしてくれるので、母の言葉を聞くと、「できないことまで、なんだかできるような気がする。」と思えました。

小学校に入学したばかりの頃のことです。図画工作の授業で、「身近にいる動物を描く」という題材で制作することになりました。

我が家では、私の幼いころから父が文鳥を飼っており、当時の私にとって「身近にいる動物」の代表格でした。当時、餌の粟や稗、黍が混ぜられたものを、陶器の餌入れに入れたり、食べ終えた殻を息で吹きとばしたりすることは、私の仕事でした。糞や抜け落ちた羽を掃除することも含めて、毎日の日課になっていました。ですから、手の上に餌を乗せると、文鳥が手に乗って目の前で餌を啄ばんだり、頭や肩の上に乗ったりして身近で遊ぶことができて楽しかったので、とても可愛がった覚えがあります。ある日、担任の先生に、「来週の図工の授業で描くから、どんな動物にするのか決めて、様子を見ておいで。」と言われました。早速、家に帰り、スケッチをして姿かたちを覚えようと思いました。授業で絵を描く段階になり、小学校に入学して新調してもらった十二色入りの

クレヨンを使うことになりました。新品であること、自分だけのクレヨンであること、好きなように描くことができることに喜びを感じながら描きました。

母の記憶によると、当時の私は、外で遊ぶことよりも家の中にいて文字を書いたり絵を描いたりすることが多かったようです。外へ出ても、走り回りながら昆虫や石ころ、雑草の葉の形を見たり、踏切で電車を眺めたりすることに興味を示していたそうです。ですから、図工で文鳥を描くときも、一生懸命に形を追ったり、色を忠実に再現しようとしていたということでした。

出来上がった絵を家に持ち帰ると、母が、早速褒めてくれました。「大きく描けたね。画面一杯に描いてあるじゃないの。」「嘴の形なんて、本物そっくりやね。」「鱗の皺まで描けとる。細かいことまでよう見とるんやね。」「何がどういうふうだからどのように良いのだと、具体的に言ってくれました。一方父は、「足ってそんなに長かったか?もう少し付け根の部分が太いんじゃないか?」「嘴の色はそんなに赤くないぞ。ピンク色のほうが近いな。」そんな言葉で、注文をつけます。自分が好きに描いた絵なので、もっと良くするにはそんなことに気をつければいいのだと思いました。褒められたり、自分を見つめさせられたりして、「よし、次はもっと頑張るぞ。」と次への制作意欲が高まりました。

褒め、認め続ける母親、そして、否定、あるいは激励し続ける父親に、そんな言葉を浴びせられることで成長してきた私は、今考えます。「それでいいんだよ。」と言われ、自分の可能性が広げられたこと、「それでいいのか。」と言われ、自分を見つめなおすことができたこと。その両方があったからこそ、今の自分があるということです。両親がどのようにバランスをとってきたか、それが意図的であったかどうかは確かめていません。しかし、認められた後には、必ず自分を見つめさせる言葉がありました。叱られたり、戒められたりした後には、良い部分を認める言葉がありました。このバランスが、幼い頃の私に絵を描くことの楽しさをしみ込ませたのだと思います。

現在、私は美術教師であり二児の父親でもあります。「それでいいんだよ。」と「それでいいのか。」のバランスの大切さに気付いていながらも、うまく使い分けられていません。当時の両親の年齢を過ぎています。わが子を含め、一人でも多くの子どもに絵を描くことの楽しさを味わわせられたらと願い、毎日教壇に立っています。

感謝

私は転勤のあるサービス業に就いております。土日祝日は基本的には仕事、二十四時間のシフト制で夜勤もあります。明確な将来の夢もなく、高校を卒業して、何となく名古屋市の専門学校に行かせてもらい、現在の職に就いております。

天職だったのか、他にやる事が無かったか、転職する勇気が無かったか、いずれかだとは思いますが、二十年間退職することなく、同じ会社で働いております。ただし、転勤があるため一つの場所に留まる訳ではなく、まずは地元に近い高山市、三年後に豊橋市、またその三年後に名古屋市と、わりと飽きてきたところに転勤となり、私としては新鮮な気持ちでいられた二十年間でありました。

その後、二〇〇六年には高山市へ再度転勤となりました。実家から通えるとはいえ、土日祝日も基本的には仕事であった為、地域の役割やPTA関係も、大変申し訳ないのですが、なかなか参加することが出来ませんでした。そんな私が今期PTA会長を仰せつかりました。私自身も不安でしたが、私よりも周りの反響の方が思ったよりも凄かったように思います。

新年度早々の入学式での挨拶、何も分からず迎えたPTA総会の緊張感は忘れられません。六月に開催された運動会は、「ふるさと大運動会」として開催されました。新しい取り組みとして、児童全員が

は地元から離れた地で安心して仕事をさせて頂いております。

PTA会長を承り、いろいろと経験させて頂いたくなかで感じていることは「感謝」です。校長先生をはじめ先生方も本当に温かく、不慣れな私を導いてくださいます。大人になり、こんなに先生と話すことになるとは思いませんでした。これもPTA会長の役得でしょうか。全然知らなかった学校のこと、自分が小学生の時に不思議に思っていたことも、今になって分かることもしばしば。すでに亡くなっている私の父もPTA会長をやっていました。こんな感じであつたのかなあと感慨深くなります。

また、仕事の面でも感謝することがあり、現在の直属の上司は同じ岐阜県内の某小学校のPTA会長でした。おかげで行事の際の休日など、お互い様ということで、大変ご理解をいただいております。

「地域」と「名字」が記載された名札を体操服の上に付け、地域の皆様に「どこ」の「誰か」が分かるようにし、大変な盛り上がりを見せました。またグラウンドには、昨年に引き続き「鯉のぼり」が舞い、盛り上がりの一助となりました。

運動会が終わってホッとしていた私に、転勤の話が舞い込んでまいりました。七月から再度名古屋への転勤辞令が下ったのです。入社して二十年、もう無いだろうと思いい、PTA会長を引き受けたところでの突然の出来事でした。現在でも、副会長をはじめとする役員の皆様、校長先生をはじめとする先生方のご理解を賜り、何とか継続してやらせていただいておりますが、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

また、飛騨市河合町は、地域の皆様の子どもたちに対する思いが大変強く、「地域を盛り上げていこう!」と、様々な行事においてご支援、ご協力を賜り、積極的に参加をいただいております。本当にありがたいと感謝の念に堪えません。前述の運動会、十一月に開催された学習発表会では、餅つき体験、地域の皆様より「きのこ汁」が振る舞われ、大変な盛り上がりを見せました。私は当日のみの参加でしたが、地域の皆様、副会長以下PTA役員の皆様の完璧な準備、段取りにより、無事に終わることが出来ました。こういった様々な方のご協力のもと、私

児童のみなさんへ、これから大きくなるにつれて分かってくると思いますが、色々な人との出会いのなかで、いつ、どのタイミングで、どんな人とかかわるか、また、どんな境遇になるか、分からないことが多いのが人生です。常に感謝の気持ちを忘れないこと。また、「ありがとう」など、感謝を言葉で伝えること。長々と書きましたが、これが私が伝えたいことでした。



イラスト&クイズ



PN: リコピン (高山市)



PN: むう (恵那市)

QUESTION-1

ハンガーを決して使わないのは何県の人たちでしょう?



出題・大山里香子 (瑞浪市)
〈答えは41ページ〉

ボランティアニュース

vol.3

夏休み環境整備作業

みんなで「過ごしやすい学校」づくりを

可児市立旭小学校PTA

旭小学校では、毎年夏休みに、安心・安全な環境を作るための奉仕活動をしています。今年は雷のため翌日に延期となりましたが、多くの保護者に参加していただきました。

通学路の除草作業や、校舎周辺の



除草及び枝枯れの点検、グラウンド側溝に溜まった土砂の排出、土手の修復、トイレを含む校舎内の清掃、運動会の保護者駐車場に借用する土地の除草作業等を行いました。猛暑の中の作業でしたが、中には自宅から道具類を持参した会員や時間を延長して作業に当たった会員もあり、「子ども達の過ごしやすい環境を保護者自身の手で作上げよう」という気迫と協力体制を実感する取り組みとなりました。

またこの他にも、読み聞かせ、児童会行事「わくわくドキドキえがおワールド」の活動支援、落ち葉はき、体験学習（稲作、町探検、雅楽教室）等を多くのボランティアで支えて頂いています。旭小の取り組み「よりよい人間関係づくり」の一端となれば幸いです。

今こそ、家族で力を合わせて、命を守る！

可児市立東明小学校PTA

東明小学校の家庭教育学級では、七月に親子防災講話と非常食作りを行いました。

まず始めに、可児市防災安全課の職員の方から家庭ですべきこととして、避難の仕方の確認・家族との連絡方法など、「いつかやれば」では、いつまでもできない事を教えて頂きました。

講話の後はいよいよお待ちかね、アルミ缶での炊き込みご飯作りです。アルミ缶を二個重ねて、簡易釜を作ります。何と燃料は牛乳パックを細かく切った物です。普段マッチを擦ったことのない子ども達は、悪戦苦闘でした。燃料の紙片を入れるのにも、「けむたい」「熱い」と親子で、てんやわんやでした。中には、アルミ缶が熱で溶けて崩れてしまったり、風で倒れてしまったりして、簡単にご飯は炊きあがりません。最後には、親子で力を合わせて炊いたご飯を、よくかみながら、その味とご飯の大切さを確認することができました。



保護者のみなさんからは、「すごく貴重な体験ができた。」「家族で防災を考える良い機会になった。」と、感想を頂きました。防災に関する活動は、初めての挑戦でしたが、親子で学ぶことの多かった記憶に残る活動になりました。

学校、家庭、地域を繋いで環境問題に取り組む

可児市立蘇南中学校PTA

蘇南中学校では平成八年度から

総合的な学習の二環として『ラブアースキャンペーン』と銘打ち、様々な形



で環境学習に取り組んできました。

その中の一つに資源回収があり、生徒とPTAが一体となって活動します。打ち合わせの段階からPTA役員も加わり、案内の配布先や当日の役割分担等を決めます。年二回の回収日には、ほとんどの会員が参加し、生徒と総勢二五〇〇名程で地域を回ります。初めは面倒臭がっていた生徒も、地域の方の「お願いします」「ありがとう」の声によって積極的に行動するようになります。地元のために活動する子どもたちの姿に成長を感じ、地域とのつながり、親子の絆が深まっています。また、収益は学校の教材や部活動の補助等に活用され、教育環境の向上に寄与しています。

『ラブアースキャンペーン』を通して、これからの社会の在り方を皆で考える機会を持てるよう、今後も活動を続けていこうと思います。

夏の終わりの親子作業

可児市立東可児中学校PTA

動を目一杯する環境が整いました。

この活動を通して、親子で協力することのすばらしさと『自分たちの使うところは自分たちで整える』という気持ちを確認し合う機会になったと思います。





救われた団地犬ダン
関朝之 著
ハート出版

可児市立春里小学校PTA
会長 佐伯哲也



昨年の夏休み前だったろうか、小学生の息子に夏休みの宿題である読書感想文の本を何にするか息子と本屋で本を探していた時にこの本を発見。十年以上前

であろうか？話題になり映画化もされていた事は知っていたが内容をハッキリとは知らなかったので手に取ってみた、数ページ読んでみて興味が湧いたが、息子は別の読書感想文用の本を選んでいたので「本は何冊あってもいいだろう」と思い二冊を購入する事にした。

帰宅後どうしても続きが気になった私は結局その日中に「救われた団地犬ダン」を読んでしまいう事になった、元々読書とは幼少時代から縁遠かった私が児童図書とは言え一気に読んだという点でこの本の素晴らしさが解って頂けるのではないだろうか。

概要はこうだ。

愛媛県の松山市に吉藤団地という集合住宅がある。言い忘れたがこれは実話である。そこに住む少女二人が捨て犬を拾う事から話は始まる。震えている白い子犬を二人は見捨てる事が出来ず内緒で団地の隅で育てようと決心をする。二人が住んでいる場所は集合住宅の団地。団地の規則で犬や猫などの動物は飼うことが出来ない。何とか二人の秘密で飼っていたのだが、そ

の子犬は歩くと壁にゴツン。餌をあげてもなかなか気づかない。二人はこの白い子犬が盲目である事に気づく。

少女二人が団地の陰で犬を飼っているのが直ぐに坂本自治会長（二人とは仲良しのおじいさん）に見つかってしまう。坂本のじっちゃんと呼ばれる自治会長の団地のルールも説明し、二人の少女に何とか理解してもらおうと説得をするのだが少女達が…。

「モウドウケンはね、目の見えない人を助けるのよ。それなのに、どうして、この犬を助けちゃいけないのよ。そんなのおかしいよ」

「じっちゃん。あのね、目の見えない人を助ける犬はいい犬だよ。だから、目の見えない犬を助けるのも、いいことなんだよね。捨てる方が悪いんだよね」

坂本のじっちゃんは、だまっていた。…。

ここから坂本自治会長は自治会の会議まで開催し、その白い盲目の子犬は幸せに暮らす事になる。

子ども達にも是非読んで頂き

たいが、我々大人にも読んで頂きたい一冊である。PTA活動など、社会には当然様々な規則やルールがある。規則を遵守する事に固執しすぎて、大切な事が蔑ろになっていないだろうか。大変考えさせられる本でした。

最後にこの犬の名前は「ダン」である。ダンチでみんなまで飼っているから「ダン」なのである。

わたしのとくべつな場所
パトリシアマキサック 著
新日本出版社



この本との出会いは、当時小学三年生だった双子の娘が、学校から課題図書として借りてきた事です。差別社会の中で生きる少女の

姿が描かれていました。とても印象的で、返却後、すぐに娘達と本屋さんへ行って購入しました。

毎年、課題図書を娘自身が決めるのですが、この年は二人して「わたしのとくべつな場所」を選びました。二人が一緒にこの本を選んだことで、その夏は、時代や肌の色、環境の違う少女の生きる世界へと、娘二人と母の三人旅が始まったのです。

子どもたちとの会話を、こんなに多く持った本は初めてです。主人公のパトリシアは、一九五〇年代のアメリカで、肌の色の違いだけで差別を受けますが、それでも子どもらしさを失わず、強く生き抜いていく少女です。娘達はパトリシアの気持ちを知らうと、何度

も読み返していました。

物語は、ドレスに着替え、希望に満ちたパトリシアが「特別なあの場所」へ行くところから始まります。娘達はワクワクするパトリシアの気持ちに共感していたのですが、バスに乗り、パトリシアは何故「黒人指定席」という表示がされた後ろの席に座らなければならぬのか理解できず、「私ならどこでも好きな席に座るよ。」と自由な心で答えました。「でも叱られたらどうする？」と聞くと、「叱られるなら、やっぱり指定された席に座るよ。」と仕方なく答えました。母としては「これが娘の体験だ」と思うと胸が痛み、辛い気持ちに先に来ますが、パトリシアのおばあさんは初めてバスに

乗ったとき「私たちにどの座席に座るかを命令することはできません。何を考えるかを命令することはできません。いんだよ。」とパトリシアに言います。本当に心に残る言葉でした。子を思う気持ちは、試練が多いほど強く立派になり、正しい心を持つことができる、誰にも負けない強い心を子に与えることができるのだと感じました。

今の時代、これほどの困難はなく、住みやすい社会です。困難を乗り越えて前に進むということは、子が成長する上で、強さや正しさを考えるに非常に重要だと感じました。

現在、双子の娘は六年生です。この度「お母さんの特別な一冊は、三年生の夏休みに一緒に読んで考

pleasure イラスト&クイズ



PN. カメ (関市)



PN. プーさん (美濃加茂市)

QUESTION -2

ヘリコプターが空でグルグル回っています。何回まわったでしょうか？



出題・安田那緒 (多治見市)
〈答えは41ページ〉

【お詫びと訂正】十一月号の本欄「いい言葉は、いい人生をつくる」の執筆者は「養老郡養老町立広幡小学校副会長 伊藤賢治」でした。お詫びして訂正いたします。

編集部

わが家のルール



大垣市立之瀬小学校PTA会長 若山 康裕

若山家の巻

ルールの習慣付け

我が家は私達夫婦と両親、小学校六年生の長男、小学校四年生の次男の六人家族です。

子ども二人は小学校の高学年になり、スポーツ少年団に入っていることから、週末は練習や試合に親子共々で出かけることも多くなり、慌ただしい時間を過ごすようになりました。このような状況にあっても、特に家族として意識している生活のルールをご紹介します。

ルール① 学校での出来事を話す

小学校に入る前から、子ども達には夜、その日にあった行事や出来事を聞くようにしていました。今では、子ども達はこちらから聞く前に自分から話してくることもあります。これからも、このようなコミュニケーションは絶やさないようにしたいと思います。

ルール② 携帯型ゲームは決った時間内のみ

テレビは勉強が終わってから

携帯型ゲーム機やテレビは、子ども達と時間などを決め、そのルールの下でやることに決めています。今後、中学生や高校生となると、ゲーム機やテレビから携帯電話やスマートフォンなどに代わってくるとは思いますが、その時のためにも、今から一定のルールの下で扱う習慣付けができればと思っています。



わが家のルール



岐阜市立青山中学校PTA会長 水野 吉近

水野家の巻

感謝・絆・責任感

ルール① 感謝の心で挨拶をする

我が家は長男・高専4年、次男・高校2年、長女・中学2年の5人家族。互いに感謝の心を持って挨拶し合い、特に何かをしてもらったら、必ず「ありがとう」と言い合える家族を心がけ実践しています。感謝の心がなくなれば、やっけてもらって当たり前になります。そうならないためにも感謝の心で挨拶するようにしています。

ルール② 今日の予定を共有する

朝食の時に、今日の予定や帰宅時間を母（妻）に伝え家族間で共有しています。互いの予定を知ることが、家族の絆を強めるとの思いから実践しています。

ルール③ お金が必要な時は父に報告する

学校や部活等でお金が必要な時は、子ども達が直接父である私に、理由と金額を伝えて「お願いします」と言うことにしています。子ども達に、金銭感覚やお金に対する責任感を身に付けて欲しいとの思いから、小さい頃から実践するようにしています。



事故が起きたときの保険だけではなく

事故を起こさないための保険へ。

スマートフォンを利用される

すべてのひとに

安全運転・事故防止のサポート、

スマ保 誕生です。

安全運転アプリ、

GK クルマの保険から。

三井住友海上

スマホでスマ保。

子の思い

わたしのあったかごぼ

羽島市立正木小学校

三年 内藤仁美

わたしは、一年生の夏休みの時、お母さんがたいへんそうだなと思ったので、ごみ出しをすることにしました。夏休みがおわってからもお母さんは、毎日いそがしうだったのです。ごみ出しをすることになりました。

ごみ出しは毎週、火曜日と金曜日にします。一年生の夏休みがおわってもずっとあたり前のようにごみを朝出しているけど、おかあさんに

「朝はともいそがしいから助かるわ。」とか、

「ありがとうね。」

と声をかけてもらってとてもうれしくて、心があたたかくなり、ずっとづづけていてよかったなと思います。

これからもお母さんを助けて、ごみ出しをしていきます。

だれかを助けられる人になりたい

多治見市立養正小学校

六年 福田零華

公園の横の坂道で、おじさんがおばあさんの車いすを押していました。私は、（大変そうだな。）と思ったけど、（私が助けなくても他の人が助けるからいいや。）と思って、走り出しました。すると、おじさんが「ちょっと手伝ってくださいませんか。」と言いました。私は、誰に言っているのかと思って、周りを見ただけ私がいませんでした。私は、（ああ、自分が助けなきゃいけないんだ。）と思いつつ、車いすを押して坂道を上りました。車椅子はとても重かったけど、何とか坂道を上ることができました。

私は、家で車いすのおばあさんたちを助けたことを話しました。

すると、お母さんは、「いい事をしたね。」と言ってくれました。私は、とてもうれしかったです。

ある日、お母さんと一緒に、南坂上公園のバス停に行くと、バスから降りたおばあさんが、車道の段差を上ることができずに困っていました。すると、お母さんがおばあさんの手を取って、「大丈夫ですか？」と声をかけて助けました。私は、（おばあさんが困っているのを見て、さっと行動できるなんて、お母さんは、すごいな。）と思いました。

私は今まで、人を助けたことがありませんでした。そんな機会がなかったし、自分は誰かを助けるような人ではないと思いついていました。でも、この二つの出来事から、誰かを助けることがとても素敵で、大切なことだと分かりました。少し勇気はいるけれど、誰かが困っていたら、勇気を出して助けられる人になりたいです。

祖母の生き方

養老町立高田中学校

三年 鈴木里奈

私の祖母は、目が不自由です。子どもの頃は、わずかに視力があつたのですが、今では明るい暗いかわかる程度です。

しかし、祖母はとても元気です。祖母は、私の母が子どもの頃使っていたピアノを弾いてみたいと思い、六十歳を過ぎてから習い始めました。年一回の発表会にも出て、ソロや連弾にチャレンジしています。楽譜はすべて暗譜です。私もピアノを習っているので暗譜して演奏するためには、相当練習しないとできないことを知っています。祖母は、苦勞しながらも、何年も習い続けています。

また視覚障がい者用の音声機能つきの携帯電話を購入し、私たちとやりとりをします。友達や家族との電話やメールは楽しみのようで、返事が遅れると「お返事待っています」と催促のメールが来る

ほぐです。

そんな祖母は、社会福祉のおかげで不自由なく暮らせると言います。祖母の家には、ヘルパーさんがやってきて、掃除や手紙の代読や買い物などの身の回りの世話をしてくれます。また、ガイドヘルパーさんに付き添ってもらって、同窓会や音楽会にも出かけます。

その他に、ごみを指定の場所まで持って行って下さる方、送迎して下さる美容院、ほしい物を届けて下さる八百屋さんなど、近所の方にもお世話になっています。

しかし、祖母は、お世話になっているばかりではありません。小学校へ、目の不自由な人の生活を

教える先生として、招かれるのです。点字板や障がい者用の携帯電話を見せたり、シャンプーとリン

スの見分け方やお金の管理の仕方などを教えます。自分なりに工夫した生活を話し、偏見や差別のない社会を教えているそうです。敬老の日に、マッサージのボランティアをすることもあります。

祖母を見ると、一方的に支援を受けたいと考えているのではなく、できることは自分で行い、いろいろなことにチャレンジし、みんなとともに楽しみたいと思っていることが分かります。体の不自由な人も、そうでない人もともに助け合い、楽しく生きることが

祖母の望む生き方なのではないかと、今は感じています。

親の願い

わが子

瑞穂市立本田小学校PTA

副会長 日比野和江

私には、三人の娘がいます。

次女は、脊椎に障がいをもって生まれました。そのため、生まれてから半年間家に帰れず入院生活でした。私も、娘の世話をするため病院生活をしていました。長女は当時まだ二歳で、甘えん坊の真つ盛り。なかなか一緒にいてあ

げられず、可哀想な思いをさせてしまいました。

次女が生まれてからは、心配なことばかりで、目を開けてくれるのかな…ちゃんとミルクを飲んでくれるのかな…と考えると眠れない日々でした。

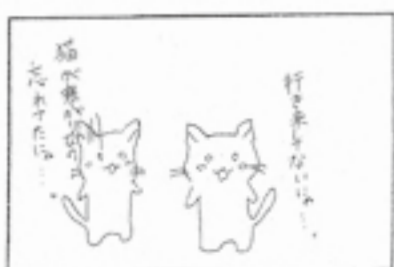
でも、声をかけて反応してくれると、それだけですごく嬉しくなりました。

そんな些細なことが幸せに思えた日から、一年、二年と時が経ち、三女が生まれすっかりお姉さんの顔をして赤ちゃんを抱く次女がいました。なんだかすごく頼もしく見えました。

自分にも妹ができた事で、今ま

大垣桜高校 まんが研究部

睦月の由来



逆さ言葉

はちにんこんにちは
(8人、今日は)

出題・加藤大亮 (揖斐郡)

ではできないと諦めてしまったことも、挑戦するようになりすぐ頑張り屋さんな子に育ちました。今では、三人の中で一番のしっかり者です。

長女は、次女が入院して私もなく、寂しい時もありましたが、病院に来ると、次女にご飯を食べさせてくれたり、オムツを替えてくれたりと、お姉さんとして一生懸命お世話してくれました。帰る時も、本当は寂しいのに、そんな顔を我慢して笑って手を振ってくれる優しい子でした。

その優しいさは今でも変わらず、社会人になった今は介護福祉士として頑張っています。家族に助けが必要ながいるからこそ、大変さをよくわかってるのに、介護福祉士という仕事を選んでくれた娘を誇りに思います。

三女は、そんな姉を見てきているせいか手のからないうつすな子に育ってくれました。今、小学校六年生ですが真面目な優しい子です。夢は、小学校の先生になる事

です。みんなに愛される先生になれることを、願っています。

三人は、性格も興味を持つことも苦手な事もそれぞれ違います。だからこそ、その子に合った事を伸ばしてあげたいと思います。子どもが悩んでいる時は一緒に悩んであげ、子どもが笑っている時は一緒に笑う。そんな、親であり続けたいと思います。挑戦する事を忘れず、夢を諦めないで前向きに頑張っていってほしいと願います。

親と子の関係

美濃加茂市富加町組合立

双葉中学校PTA

会長 酒向和幸

以前の親が子に対する願いと、私たちが実際に大人になって子に対する願いは、随分違ってきている気がします。

これは親と子の関係が変化してきていることと関連しているのではないのでしょうか。

私たちが子どもの頃は、父親は

厳格で家族間でもあまり会話の無いようなスタイルが多かったのではないかと思います。この頃は父親と子どもとの距離感が近くなっている気が致します。そのことで親の子に対する願いも変化していると感じます。

こうした変化は、以前の親子関係で感じたことを子どもに与えたくないとした思いと、わが子がこの世に生を宿す時に父親が立ち会ったりに近くいたことが影響しているのではないのでしょうか？あくまでも全ての親がそうなのではない事ではありませんが、変化していることは間違いではないと感じます。今の親子関係の中では子は親と近い関係が築けている為に相談しやすい距離にいると思います。

ここで私が学生の頃、恩師からの言葉で今でも心に残っている言葉がありますのでご紹介致します。

「人間はこの世に生を宿してから、その生を終えるまで数多くの

恩を受けて生きてきます。皆さんはその生命を終えるときに、これまで受けた恩よりも与えた恩を多くして下さい。」

とした言葉です。

私自身この言葉が心に響き、事あるごとにこの言葉を思い出し、機会があればこの言葉を発信しています。この言葉が一人でも多くの人に響いてくれることを願っています。もちろん私の家族を代表にして。

一般的に、親は子に色々な期待や願いを託したいものです。それは当たり前なことと思いますが、人としてどうあるべきかの核となる背骨がゆるぎないものであれば、子はどうしたら良いのだろうか？と迷いが生じた時にでも、自分自身で答えを見つけ生きて行けると思います。それでも迷いが生じた場面に、親に相談しやすい関係を築けていればと願いますし、親としての役目が発生するのではないかと感じています。

教育の窓

徳に感化されて善に移る

北方町立北方小学校

校長 河村正志

北方小学校は、明治六年、化成舎として地域の方の熱い思いのもと、創設されました。「化成」とは、中国の書物易経の「化成天下」という言葉に由来し、その意味は、「徳に感化されて善に移る」ということだそうです。

さて、子どもたちを教育育てるということを考えてみますと、この校名に込められた願いが、貴重な示唆を与えてくれるものである

と感じます。学校や家庭では、子どもたちに学習や生活習慣や社会規範など、様々なことを教えていきます。しかし、教えることの効率、教えたことの成果ということを考え始めると、「教え方が明確なら理解できる」「教えたことはできる」という見方や考え方が先に立ち、学ぶ側の子どもの心がおさなりのなっています。

私が、中学校で担任した時のことです。中学生の気持ちを汲み取れず、「丁寧に教えているのに、どうして生徒は動かないのだろ」と悩んだ経験があります。そんな時、偶然出会った言葉が、ドイツの詩人ゲーテの「若者は教えては

動かない。感じて動く。」という言葉でした。「自分は教えることばかりで、生徒が自ら心を動かすようにはしていなかった」とハッとしたこと覚えています。その後、朝のホームルームの時間に何も言わずに学級の生徒を三年生のクラスへ連れて行きました。その日の生活日記に生徒が、「三年生の合唱を見に行った時、先生は何も言わなかった。なんだろうと思っていたけど、意味がわかった。私達の合唱を三年生みたいになりたいと思っていたんだと。何も言わなかったけど、みんなわかった。自分達の合唱はとてもレベルが低かった。」と書いてきました。その後、

自分達で合唱の取組の呼びかけを行い、真剣に取り組み始めたことを記憶しています。

子どもを教育育てるためには、子どもの心に火をつけるのが大切だと思います。それは、子



「笑顔と感動がみなぎる学校」北方小玄関ホール

大垣桜高校 まんが研究部

雪だるま



逆さ言葉

よるあるよ
(夜、あるよ！)

出題・廣瀬茉莉(本巣市)

どもの立場になって、子どもが心を動かされる事実や事象に出会わせることでしょ。詩人相田みつを氏の言葉に「感動は、感じて、動く書く。」とあります。感動できるものを与えたとき、子どもは自ら動き出します。動き出せば、「変化」します。心の変化や行動の変化を価値付け、その子の本物へと移すことです。それによって獲得したものが本当の力です。

善は教えるものではなく、徳に触れて感じることで自分のものへと移っていくという「化成」に込められた願いは、今の時代にも大切な教育の方向を示唆するものであると捉え、子どもたちを育てていきたいと思えます。

「郷土教育」で「ひとり立ち」する生徒を育てる

高山市立朝日中学校

教頭 中村希志

本校がめざすのは「郷土教育を推進する学校」「ひとり立ちする

生徒」である。私は赴任当初、「郷土教育」がなぜ生徒を「ひとり立ち」させることができるのかよく分からなかったが、様々な行事に関わる中で少しずつその理由を理解していくことができた。

一つ目は本校に二十年以上続く伝統行事「千町牧場肥料撒き」である。校区にある御嶽山の麓に広がる「千町牧場」に行き、飛騨牛が食べる牧草を育てるために肥料を撒くという単純な活動であるが、

現地に行くこととまず御嶽山や乗鞍岳を間近に望む高原牧場の雄大で美しい景色に圧倒される。また生徒たちは広大な土地に一回五、十kgの肥料を何百俵分もひたすら真剣に撒き続けるのである。この行事では、郷土の自然の素晴らしさと、苦しい単純作業を継続して行うことの大切さを学ぶことができる。

二つ目は「ハイタッチ挨拶」である。これは二年前の生徒会長が選挙公約の中で掲げた挨拶であり、本校の伝統になりつつある。毎朝生徒会のメンバーが校門に立

ち、登校する生徒にハイタッチをしながら目を見て大きな声で挨拶をする活動である。しかし私が驚いたのはこの挨拶が何十年も続いているかのように、どの子も学年や男女分け隔てなく当たり前にできていることである。今ではこの活動は学校職員やPTAだけでなく、地域の方も巻き込んで行われている。この活動は、生徒同士だけでなく大人との心のふれあいも深めている。

三つ目は郷土学習である。一年生は外来植物「オオハンゴンソウ」の駆除を行う。地域の実態を知り、地域の方から駆除方法だけでなく鎌や鍬の使い方も教わる。二年生は地域の特産品開発を行う。地域の特産品「かわらべ」「よもぎ」等を知るだけでなく、それを使った料理について地域の方から調理方法を学んで、オリジナル料理の開発に挑む。三年生は一人暮らしのお年寄り宅訪問「まごの手訪問」を行う。お年寄りと話だけでなく、お家の掃除や草取りなども積

極的に行う。どの学年の活動も地域の現状を学んだ上で、「地域のために自分は何ができるか」を強く考えさせることができる。

これらの活動は、生徒たちに郷土に対する強い愛情を生み、大好きなふるさとをもっと良くしたいと願う意識、つまり郷土（社会）に積極的に貢献しようとする社会人（自ら考え行動する人間…ひとり立ちする生徒）を育てることにつながっているのである。生徒が日々ひたむきに学校生活を送る今の姿と、将来地元で活躍する姿をリンクさせながら、私もその一助になれるよう、生徒や職員、保護者や地域の方と共に歩んでいきたい。



Q1

①～④のひっさんが完成するように、かじられたア～エの数字を答えましょう。

①

$$\begin{array}{r} 13 \\ + 26 \\ \hline 39 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r} 41 \\ - 21 \\ \hline 19 \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r} 28 \\ \times 2 \\ \hline 60 \end{array}$$

④

$$\begin{array}{r} 35 \\ - 55 \\ \hline 0 \end{array}$$

回答した、ア～エの数字を並べると…!?

答え **アイウエ**

Q2

①～④の問題の答えを下のます目に合わせて入れてみましょう!太枠で囲んだところには何と言う言葉が出てくるでしょうか?

- ①元日の朝、日がのぼることを何と言う?
- ②2月は如月、3月は弥生、では、1月は?
- ③初夢で見ると縁起が良いもの「一〇〇 いち 二鷹 に たか 三茄子 さん なすび」。
- ④家の玄関などに飾る松や竹を使った正月飾りはなに?
- ⑤20歳のお祝いを行う式典をなんと言う?

今年は
〇〇〇〇〇!

①	は				
②				き	
③					
④					つ
⑤			じ		

親子ではてな

1月号のクイズ

11月号クイズ答え

- Q1 立冬
- Q2 う

11月号のクイズ当選者

伊藤亜莉沙(岐阜市) 金谷 莉奈(大垣市)
今西 佑羽(羽島市) 三宅 花(美濃加茂市)
木村 龍一(各務原市) 安田 那緒(多治見市)
坂井 彩夏(各務原市) 大山里香子(瑞浪市)
中森由美子(瑞穂市) 牧野 にこ(中津川市)
伊藤 慎介(山県市) 尾崎 真司(高山市)

応募方法

応募者は、はがきで、1月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- 1月号クイズの答え
- 郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉



★お試しクッキング★ 里芋の 味噌チーズ焼き



材料 4人分

・里芋	240g	・上白糖	52g
・豚肉ミンチ	80g	・酒	20g
・玉葱	100g	・粉チーズ	12g
・しょうが	4g	・バター	8g
・豆みそ	52g		

さといも料理で一番の悩みは、手がかゆくなることです。里芋を皮付きのまま蒸すことで、かゆみを感じることなく料理ができます。その上蒸しあがった里芋の皮は、ツルツとむけますから、簡単にできます。

この料理のポイントは、熱いうちに里芋をつぶすことです。またコcott皿がないときは、グラタン皿を使用してください。

じゃがいもにミートソースを使ったシェパードパイはよくあります。また里芋には、「みそソース」がとてもあうと思います。

関市で有名な円空里芋は、他の里芋に比べて大きく丸い形をしており、煮崩れもしにくい特徴があります。またあの独特なぬめりの中には、「ムチン」という物質が含まれています。「ムチン」には、肝臓や腎臓の働きを助け、老化を防止する働きがあります。

その上「ムチン」は、タンパク質の消化と吸収を高めて胃腸の働きを良くし、潰瘍を予防する作用もあります。

冬においしい里芋を目先を変えた料理で食べてみてくださいね。

作り方

- 1 里芋を洗い、里芋の上下の皮を少し切り落とし、皮付きのまま蒸し器か電子レンジで蒸す。
- 2 里芋が柔らかくなったたら、皮をむいた里芋をボールで熱いうちにポテトマッシャーなどでつぶし、バターを混ぜる。
- 3 しょうがは、すりおろしておく。
- 4 フライパンを温め、豚ミンチを炒め、余分な脂は、キッチンペーパーなどでとり除く。
- 5 すりおろしたしょうがとたまねぎを入れ、炒める。
- 6 たまねぎが、しんなりしたら豆みそ・酒・上白糖を入れ、弱火にして混ぜる。
- 7 コcott皿に②の里芋を入れ、⑥のみそソースをかける。
- 8 粉チーズをふりかけ、200℃で10分オーブンで焼く。表面に焦げ色がつけばできあがり。

●栄養価(1人分)

エネルギー	192kcal
たんぱく質	7.8g
脂質	5.8g
カルシウム	52mg
マグネシウム	36mg
鉄	1.5mg
亜鉛	1.2mg
ビタミンA	12μgRE
ビタミンB ₁	0.14mg
ビタミンB ₂	0.28mg
ビタミンC	3mg
食物繊維	2.6g
塩分相当量	1.5g



■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな？」の回答とともにお願いします。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■11月号を読んで

「子どもの心のコーチング」。前回に続き菅原先生の講演内容には「あ!私のことだ!」と思うようなことも多く、「そうか、こうすればいいんだ。」と学ぶことばかりでした。とてもいい勉強になりました。決して難しいことではなく、笑顔で、広い心で見守ったり、優しく明るく接することだと思います。「学校の宝物」では、子どもの通う福寿小であり、私の母校でもあり、いつも以上に大変うれしい気持ちで読ませていただきました。ますます素晴らしい学校になっていくことを希望します。 I Sさん

子どもの心のコーチング。わが家も毎朝、子どもを起こしています。「遅刻しないために自分で起きる」は、子どもの仕事だということに気付かされました。いきなりは難しいので、少しずつ子どもの仕事だということで、朝は見守ってみたいです。 M Yさん

同じ県でも、西濃と東濃では学校行事などが、その土地ならではのオリジナル感があって、毎号楽しく読んでいます。ゆっくり記事に目を通すと、久々の読書リフレッシュできています。 K Nさん

特集、続きを確かに楽しみにしていました。ただ、前回から期間が空いてしまったがために、前回とはどんな内容だったろうと考えてしまいました。紙面の都合もあるとは思いますが、一回で完結させてはいいかがでしょうか? N Yさん

三人娘の双子(二女・三女)は来春、中学入学。校区や部活動のことで悩みます。なぜ、学校によって部活動の取り組みかたに違いがあるのでしょうか。(同じ市内でも)? M Tさん

孫が帰宅の時間を待つ祖母(私)に、「わが子のあゆみ」を手渡してくれました。次に回すというので、さら～と見るだけでしたが、私に見せてくれるという事が嬉しかったです。クイズ、考えました。 S Nさん

最近、災害が多くなっているように思います。夜の10時頃になったら、どうしたらいいのが悩みます。寝ている頭で何ができるの?お風呂中だったらどうするの?家で居るのと、どこかへ行く途中で何かあったらいいだし、少しいろんなこと、考えるようになりました。 I Yさん

■編集後記

新年のお慶びを申し上げます。昨年2月、ソチオリンピックがありました。スノーボードの平岡選手や平野選手の活躍やフィギュアスケート羽生選手の完璧な演技などに、心を躍らせました。サッカーワールドカップブラジル大会では日本チームの大半が、海外リーグで活躍しているメンバーでした。野球ではアメリカ大リーグで田中マー君、ダルビッシュ、岩隈、黒田など日本の投手が大活躍。ロイヤルズの青木はワールドシリーズ進出に貢献。テニスでは錦織選手の全米オープン準優勝、ツアーファイナルでの準決勝、世界ランキング5位はテニスファンならずとも賛辞を惜しまない活躍でした。

国内では昨年8月、明石市で第59回全国高等学校軟式野球選手権大会が行われました。東海地区代表の中京高校(瑞浪市)は、準決勝で崇徳(広島)と対戦。延長15回を3日間45回続けても0対0。4日目の延長50回に3点を挙げて決勝進出。その日に三浦学苑(神奈川)と決勝戦を戦い、2対0で勝利し優勝しました。4日間、TV放映はなく試合の様様を報じた新聞を見るのが楽しかったです。勇気付けられた4日間でした。

プロ・アマを問わず、活躍する一流選手のプレーを見て子どもたちは憧れ、真似て頑張り、夢を追い続けます。正しい指導と理解のある環境は、子どもたちに夢を追わせながらその時期にしか得られない貴重な体験をさせてくれます。ルール(規則)や約束を守る節度、他への感謝や恩に報いようとする礼儀、技術を高めようとする意志は、この様なところから育まれます。「コーチング」は、こんな所から生まれたのです。

本年も、「わが子のあゆみ」のご愛読、よろしくお願いします。

■なぞなぞの答え

- ①福岡県(ふくおかけん・服を掛けん)
- ②旋回(ぐるぐる回ること。せんかい・1,000回)

■1月号のお知らせ(予告)

特集・東日本大震災被災地交流から得たもの／表紙＝今須小中／学校の宝物＝日野小・揖斐小・坂本小・丹生川中／私の宝物＝日吉小／弁当の日＝穂積北中／家庭教育学級応援団＝県教育委員会社会教育文化課／シリーズ「療育」＝海津特別支援学校／保健室ノート＝武芸小／私の先生＝日枝中／半生記＝真正小／ボランティアニュース＝朝日小・本郷小・丹生川小・荘川中／一冊の本＝岐阜大学付属小・久々野中／わが家のルール＝大和北小・南姫中／ふるさとの伝承＝三枝小／我らが部活＝神洲中／私たちのPTA＝明郷小／きらりキッズ!＝土岐津小／作文＝宮小・大和南小・駄知中・合原小・本巢中・今波南小・岐阜中央中／お試しクッキング＝岐阜県学校栄養士会

わが子のあゆみ

平成27年1月1日 発行
初春号 第66巻4号
通巻436号

頒価 200円(年間1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話／058-262-3257 FAX／058-262-3259
ホームページ／http://www.g-pta.com
Eメール／info@g-pta.com
印刷／サンメッセ株式会社

白川村立白川中学校は小学校を敷地内にもつ小中一貫教育を行っています。子どもたちには、将来、世界のどこにいても自分で考え、判断し、ふるさとを誇りに思う『一流の地域人』になって欲しいと願っています。

白川村の合掌集落は世界文化遺産であり、毎年秋にはどぶろく祭りも行われています。

この祭りは、村内の各地区で行われており、子どもたちは物心ついたときから祭りを見て育っています。

小中学生になっても、獅子舞を見たり演じたり、神事の巫女を務めたり、民謡を踊ったりして故郷に伝わる伝統文化を伝承しています。つまり、児童生徒の普段の生活の中に伝統文化が位置付いているのです。

そこで、学校では児童生徒が生活の中ではあまり触れることのない内容についても学ぶ場を位置付けたり、伝統文化を他の人々に見ていただき評価を得ることで子どもたちの自信や誇りにつなげたいと考えています。

合掌家屋の屋根組作り体験学習

白川小学校の四年生では、合掌家屋の屋根の組み立てを行います。体育館で屋根の骨組材を組み立て、綱で固定していきます。また、合掌集落では、「ネソ」と言われる「マンサク」の枝をねじって骨組み材の結束をする体験活動もしています。地域に伝わる伝統技術のすばらしさを体感しています。

茅刈り体験学習

毎年、十一月には、合掌家屋の屋根材に使われる茅を刈る体験学習を行います。中学校生徒が全員参加し、村内の茅場で茅刈りを行います。白川村の村民であつて

も今や茅刈りを体験することはほとんどありません。体験をした生徒からは、「貴重な体験ができました。僕たちの刈った茅は、屋根に使われる茅の何分の一かもしれないけど、僕たちの刈った茅が使われると思うと嬉しかったし、力になることができてよかったです。」などの感想が聞かれました。

茅葺き体験学習

合掌造り家屋の屋根葺きは、「結」といわれ、村民の互いの労働力の提供によって行われることも体験します。これは、毎年度必ず行われるものではありませんが、「結」で屋根葺きが行われるときには、希望する生徒が茅運びなどの作業に参加し、地域の大人の屋根葺きの技術を見学します。

オーストラリアでの伝統文化発表会

中学生は、夏季休業中に村主催の海外研修でオーストラリアに出かけます。ここでは「ふるさと学習」の出口として、村の文化や名所、伝統芸能について披露します。オーストラリアの方々は、白川村の民謡や獅子舞、合掌家屋などについて大変興味を持たれます。そのことが中学生の誇りとなり『ふるさとを大切にする』気持ちへとつながっています。

このような白川村での生活や学習をとおして、子どもたちは白川村のことを大切に思っています。今後、子どもたちが自分たちの村の将来について地域の大人と共に考える「白川村子ども未来会議」を開催しようと考えています。



▲茅を運ぶ子どもたち



▲骨組の結束技術である「ネソ練り」を学ぶ



▲合掌家屋の屋根組みに取り組む子どもたち



▲茅刈りを終えた白川中学校全校生徒



▲刈り取った茅を束ねて「ニュー」を作る



オーストラリアでの伝統芸能披露▶



▲「結」で行う合掌家屋の茅の葺き替え



▲白川村どぶろく祭りで活躍する子どもたち

ふるさとを誇りに思う
『一流の地域人』になって欲しいと願っています



郡上かるた
郡上クラブで取り組んだり、郡上市かるた大会にたくさんのチームが参加したりしています。



郡上おどり講習会
郡上おどりのシーズン前に保存会の方を招いて、踊りのレベルアップをめざします。



運動会で郡上おどり(春駒)
昨年度、運動会での郡上おどりが復活しました。たくさんの保護者、家族と一緒に踊ります。



長良川カヌー体験
毎年、4年生が体験します。初めて乗るカヌーにドキドキしながら、でも楽しんでいます。



観光ガイド活動
6年生が自作のパンフレットを手に、八幡を訪れている観光客の方に観光名所をガイドします。



大好きだよ!ふるさと郡上八幡!

**きらい!
キッズ!**

郡上市立八幡小学校

めざせーふるさと名人

郡上八幡といえば、八幡城、名水百選に選ばれた宗祇水、食品サンプルなどがあるのですが、全国的に有名なのは、やっぱり「郡上おどり」です。ご存知の方、実際に踊られた方もみえるのではないのでしょうか。

本校では「ふるさと名人」になるために、地域行事に積極的に参加したり、八幡のよさに触れる体験活動を行ったりすることを重視しています。特に「郡上おどり」については、シーズン前は「郡上おどりカード」の配付、「親子おどりの夕べ」の開催、保存会の方を講師として学校に招いての講習会などを行っています。また、シーズン中には、5年生が「郡上おどり発表会」に参加していますし、多くの児童が町内をめぐる「郡上おどり」に積極的に参加しています。さらに、運動会では親子で「春駒」を踊るなど、地域・PTA・学校が一体となって、様々な形で「郡上おどり」に取り組み、盛り上げています。その他、「ふるさと名人」になるための活動、取り組みとして、長良川でのカヌー体験、郡上本染め体験、観光ガイド活動、郡上かるたにも力を入れています。ふるさと「郡上八幡」にどっぷり、浸り、そのよさを、知り、地域やそこに暮らす人との関わりを大切にしながら取り組みにより、児童が「八幡についていい所やんなあ」「八幡のこと好きやあ」そんな「ふるさと郡上八幡を愛する」気持ちを抱いてほしいと願っています。

郡上市立八幡小学校は、全校児童二七七名の学校です。開校は桜義校を前身とし、明治六年と古く、とても歴史のある学校です。教育目標「進んでやりぬく」の達成に向けて子どもと職員が「丸」となって頑張っています。本校では、五つの名人(①聞き名人②ほかほか名人③呼びかけ名人④安全名人⑤ふるさと名人)に挑戦する取り組みを行っています。今回はその中から、「ふるさと名人」の取り組みについて紹介します。

郡上本染め体験

冬の寒い、天気の良い日に作業を行います。色鮮やかな鯉のぼりの完成です。郡上の伝統・風物詩です。



郡上おどり発表会

夏休みに市内の小中学生を対象に開催される郡上おどりのコンクールです。毎年、5年生が参加します。



親子おどりの夕べ

夏休み前にPTA主催で開催されます。毎年、たくさんの親子が参加して盛大に行われます。



長森南中学校は全校生徒数が405人の学校です。部活動は11の運動系の部で活動しています。「志をもって自立をめざす～自らを愛し、他を愛す～」という学校の教育目標に向かって、どの部も精力的に活動しています。それぞれの部の活動を次の3点で紹介したいと思います。

①部活の合い言葉 ②合い言葉に込められた 熱い願い ③新部長から



岐阜市立長森南中学校

女子バスケットボール部



- ①「ド素人」
- ②練習では、基礎基本を大事にする。日々の生活から、精神を鍛える。気持ちを鍛える。

③私たち女子バスケットボール部では、「全カスマイル」を目標に日々練習を頑張っています。練習では、自分たちでメニューを決め、自分たちで厳しく刺激しあひながらやっています。試合の時には、どんな相手でもまず気持ちで勝ち、選手全員で声を掛け合いながらプレーしています。『県大会出場』を目指し、バスケド素人チームみんなで頑張ろう!

男子バスケットボール部



- ①「バスケットボールのために日常生活を正す」
- ②日々の授業・生活・部活動で自分から積極的にアピールすることで、自分の行動に自信と責任をもつことができ、よりよいプレーができる。また日常生活でしっかりしないと、厳しい試合のときにミスがでる。

③県大会出場!
うまくいかないときは、走れ! 声を出せ!

サッカー部



- ①「練習は本番のように、本番は練習のように」
- ②練習では本番のように全力、真剣に取り組む、本番では練習のように落ち着いてプレーができるように一人一人が常に意識を高めていく。

③僕たちはまだまだ良い成績を残せていません。春季大会と中体連で一つでも勝ち上がることを目標に頑張ります。

野球部



- ①「一球入魂」
- ②全てのことに全力で取り組むこと!
- ③夏の中体連では地区大会・県大会に出場します。そのためには、日頃の練習の充実・日常生活の改善が必要です。そして、一球入魂の目標を達成します。

③僕たちはまだまだ良い成績を残せていません。春季大会と中体連で一つでも勝ち上がることを目標に頑張ります。

男子ハンドボール部



- ①「一丸」
- ②一丸には、みんなの気持ちを一つにして本気で取り組みたいという願いが込められている。部活動、日々の生活に本気で取り組むことで、強い心、強い体を作っていきたい。

③練習に真剣に取り組む、試合で一勝する!

女子ハンドボール部



- ①「あいさつ」・「声」・「全力」
- ②私たちは、ハンドボールができる感謝の気持ちを忘れず、好感のもたれる選手を目指しています。今は、まだ勝つことができませんが、全力で取り組むことで、成長していきたいと考えています。

③中体連までに、まずは一勝!

剣道部



- ①「不動心」
- ②いつもどんなときも全力で攻める。
- ③毎日全力で練習を行う。剣道を通して、人として成長する。中体連では、団体戦で男女ともに地区大会に出る。

ソフトテニス部



- ①「テニスも日常生活も一流」
- ②日常生活の頑張りや試合の姿に繋がる。「挨拶」「掃除」「授業姿勢」にこだわる。日常生活でのミスを減らしていくことがテニスの上達・勝利に繋がる。

③中体連の団体戦で地区大会に出場し、一勝以上は必ずする。勝利の為には生活を整える。

卓球部



- ①「全力」
- ②全ての力を出し切ってベストを尽くし、さらに一つ一つのプレーを大切にしたい。
- ③一人一人が全力を出し、地区大会出場を目指します。また、普段の練習を真剣に取り組む、試合で十分に力を発揮できるようにします。

③中体連までに、まずは一勝!

バレーボール部



- ①「全戦入魂」
- ②全ての試合・練習に必死に取り組む。
- ③少ない人数で勝つために一人一人が積極的に部活動に取り組んでいます。試合など、ゲームをするときは、どこのチームよりも楽しくプレーしています。最終目標は県大会ベスト8です。練習は大変だけど、楽しい雰囲気です!

③中体連までに、まずは一勝!

陸上部

- ①より速く、より高く、より遠く。
- ②それぞれの種目に対して1cmでも1秒でもいい記録を出そうという願い。
- ③全員が陸上部の合い言葉に向かって頑張っていける部活動にしていきたい。そして、走るのが楽しい、頑張るのが楽しいと当たり前のように練習ができる部活動をつくりたい。



心も体もたくましく鍛える

私たちのPTA

大垣市立赤坂小学校

PTAスローガン

「未来の扉を開こう」

赤坂小学校と赤坂町の関わり

大垣市立赤坂小学校は児童数四百五十三人で、全学年で十六クラスあります。この赤坂小学校のある赤坂町は歴史ある町で、江戸時代には中山道の五十七番目の宿場町として、そして戦後は石灰産業などで栄えました。昭和四十二年には大垣市に編入され、来年で五十周年を迎えますが、今なお地域のコミュニティが色濃く残り、登下校の子どもたちを地域の方が見守ってくれたり、地域の行事に子どもたちが参加したりと、様々な形で地域と学校は関わっています。また学校においても地域の歴史や文化を独自に学ぶふるさと学習に取り組んでいます。

PTAのスローガン「未来の扉を開こう」

スローガンには、子どもたちが自ら明るい未来を切り開いていくてくれるよう、願いを込めて掲げました。PTAでは活動を通して、子どもたちの明るい未来を創造できるよう、様々な取り組みを行っていきたくと考えています。

各委員会紹介

PTAは以下の六つの委員会で構成され、それぞれの役割の中で様々な活動を行っています。

【総務委員会】

今年で二十一回目を数える相撲大会



相撲大会の様子
白熱した取組に、保護者の声援にも力が入ります

【広報委員会】

年三回発行するPTA広報誌「かなぶやま」の制作を行うため、様々な学校行事やPTA行事に参加し、日々取材活動を行っています。



PTA広報誌「かなぶやま」
学校での子どもたちの様子を紹介しています。

【校外指導委員会】

地区懇談会や地域のお祭りでのパトロール、学校行事での駐車場の確保など、地域との関わりの中で子どもたちの安全を見守っています。

【成人教育委員会】

親子ものづくり講座や親子料理教室、ハグ活動週間など家族の絆を感じられる取り組みを行っています。

【学年学級委員会】

主にファミリー参観の際に行われる学級懇談会やクリーン活動など、保護者と学校との交流の機会を通じて、相互理解を促進しています。

【厚生委員会】

資源回収や献血運動、給食試食会など、子どもたちの健康に寄与する取り組みを行っています。

これらの活動の他、地域と連携して、子どもたちの社会教育の推進を図るための活動を行っています。
地元企業に研修に來ているミャンマーの方を学校にお招きし、子どもたちとの

交流会を行いました。ミャンマーという国を知らない子どもたちも言葉が通じないけど、すぐに仲良くなりました。
また、東海環状自動車道の工事現場の見学会も行い、そのスケールの大きさを感ずることができました。
PTAでは今後とも地域と連携しながら、子どもたちが未来の扉を開けるよう、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

資源回収
地域の方にご協力をいただき、多くの資源回収ができました



クリーン活動
お父さんも参加し、側溝掃除や高い所の窓掃除などができました



東海環状自動車道の工事現場の見学会
大きなクレーンに乗ったり、工事現場を見ることができました



ミャンマーとの交流授業
言葉が通じなくても仲良くなりました



親子料理教室の様子
料理教室では、子どもと一緒に楽しく料理ができました。



化石のレプリカづくりの様子
化石のレプリカづくりには保護者も楽しく取り組みました